



SII Printer Driver for Windows

取扱説明書

Rev.02

[対象製品]

SLP720RT シリーズ

SLP721RT シリーズ

セイコーインスツル株式会社

Rev.01	2022 年 3 月
Rev.02	2022 年 10 月

©セイコーインスツル株式会社 2022

無断転載を禁じます。

本書の内容は、断りなく変更することがあります。

本書及び本書に記載された製品の利用によって発生した
損害及びその回復に要する費用に対し、当社は一切の責任を負いかねます。

この取扱説明書を第三者に無断で頒布することを禁じます。

Microsoft®及び Windows®は米国 Microsoft Corporation の米国、日本及びその他の国における登録商標です。

その他の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

はじめに

本書は、セイコーインスツル株式会社（以降：SII）が提供する「SII Printer Driver for Windows」（以降：プリンタードライバ）について説明します。

本書の表記

本書の表記について説明します。

操作と表示

本書は原則、下記の条件に基づき記載します。

- Windows 10及びSLP720RTの画面及び表示構成
- マウス及びキーボードによる操作方法

オペレーティングシステムの略称

本書で使用されているオペレーティングシステムの略称について記載します。
個別で説明する必要がある場合は、略称の後ろに記載した括弧書きの内容で説明します。

オペレーティングシステム	略称
Microsoft® Windows®の全般	Windows
Microsoft® Windows® 11	Windows 11
Microsoft® Windows® 11 IoT Enterprise	
Microsoft® Windows® 10	Windows 10
Microsoft® Windows® 10 IoT Enterprise	
Microsoft® Windows Server® 2019	Windows 10 (Windows Server 2019)
Microsoft® Windows Server® 2016	Windows 10 (Windows Server 2016)
Microsoft® Windows® 8.1	Windows 8.1
Microsoft® Windows® Embedded 8.1 Industry	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2	Windows 8.1 (Windows Server 2012 R2)

用語一覧

本書で使用する用語について下記の通りに定義します。

用語	内容
プリンター名	プリンターフォルダーに表示され、ユーザーが変更できるフレンドリ名
ドライバー名	プリンタードライバーを識別する固有のモデル名
SDK	プリンタードライバーに付属する、直接プリンターと通信して制御することを目的とするアプリケーション開発向けダイナミックリンクライブラリ (DLL)
プリンターフォルダー	下記の操作により表示されるフォルダー [コントロールパネル]⇒[ハードウェアとサウンド]⇒[デバイスとプリンター]の順に選択し、表示される[デバイスとプリンター]フォルダー
プリント サーバーのプロパティ	下記の操作により表示されるプロパティ [プリンターフォルダー]内の任意のプリンターアイコンをクリック⇒[プリンターフォルダー]上部のツールバーに表示された[プリント サーバー プロパティ]を選択し、表示される[プリント サーバーのプロパティ]
技術説明書	下記の技術説明書 ・ SLP720RTシリーズ サーマルプリンタ 技術説明書 ・ SLP721RTシリーズ サーマルプリンタ 技術説明書
取扱説明書	下記の取扱説明書 ・ SLP720RTシリーズ サーマルプリンタ 取扱説明書 ・ SLP721RTシリーズ サーマルプリンタ 取扱説明書
プリンターコマンド	「技術説明書」に記載されている、プリンターを制御するための命令
メモリスイッチ	「取扱説明書」に記載されている、[機能設定]の機能
NVイメージ	プリンターのNVメモリ(不揮発性メモリ)に登録されたイメージデータ
IPD※1 フォント	プリンタードライバー独自の下記のフォントの総称 ・ デバイスフォント: プリンターに搭載されているフォント ・ バーコードフォント: プリンターでバーコードを印刷するための特殊フォント ・ 2次元バーコードフォント: プリンターで2次元バーコードを印刷するための特殊フォント ・ コントロールフォント: あらかじめ登録されているプリンターコマンドを使用するための特殊フォント ・ コントロールAフォント: ユーザーが登録したプリンターコマンドを使用するための特殊フォント
特殊フォント	IPDフォントで、プリンターコマンドの出力のために使用する下記のフォントの総称 ・ バーコードフォント ・ 2次元バーコードフォント ・ コントロールフォント ・ コントロールAフォント
ドット	印字を構成する単位 SLP720RT/SLP721RTシリーズは8ドットで1mmのドット密度で印字

※1: Integrated Printer Driver

サポート用紙と本書での名称

プリンタードライバーがサポートする用紙と本書での名称を下記に記載します。

全体	種類別	機能別	略称	サポート
用紙	レシート	マークなし用紙	レシート	✓
	ライナレスラベル紙	マークなしライナレスラベル紙	ラベル紙	✓
		マーク付きライナレスラベル紙	マーク紙	✓
	SLPラベル紙	SLPラベル紙	ラベル紙	✓

記号

本書で使用する記号について下記に記載します。

注意

- ◆ 注意事項や制限事項を記載しています。

参考

- 補足説明や関連事項を記載しています。

1章	概要	1-1
1.1	動作環境.....	1-1
1.1.1	システム環境.....	1-1
1.1.2	対象製品.....	1-2
1.2	プリンターの設定.....	1-2
1.3	制限事項.....	1-3
2章	インストール	2-1
2.1	新規インストール.....	2-2
2.1.1	インストール共通手順.....	2-2
2.1.2	USB接続でのインストール.....	2-4
2.1.3	TCP/IP接続でのインストール.....	2-5
2.1.4	共有プリンターのインストール.....	2-7
2.2	アンインストール.....	2-9
3章	印刷設定	3-1
3.1	レイアウト.....	3-2
3.1.1	レイアウトの設定.....	3-2
3.2	用紙/品質.....	3-3
3.2.1	用紙/品質の設定.....	3-3
3.3	書式設定.....	3-4
3.3.1	書式の設定.....	3-4
3.3.2	設定ビューのマーク一覧.....	3-5
3.3.3	設定リストのカテゴリ.....	3-6
3.3.4	プリセットの利用.....	3-7
3.3.5	基本設定.....	3-11
3.3.6	用紙カット/マーク紙設定.....	3-13
3.3.7	オプションの設定.....	3-14
3.3.8	バイナリエディターの使用方法.....	3-16
3.4	フォント.....	3-17
3.4.1	フォントの設定.....	3-17
3.4.2	設定ビューのマーク一覧.....	3-18
3.4.3	設定リストのカテゴリ.....	3-18
3.4.4	デバイスフォントの設定.....	3-19
3.4.5	バーコードフォントの設定.....	3-21
3.4.6	2次元バーコードフォントの設定.....	3-25
3.4.7	コントロールAフォントの設定.....	3-28
3.5	詳細設定.....	3-29
3.5.1	詳細オプションの設定.....	3-29
4章	プリンターのプロパティ	4-1
4.1	全般設定.....	4-2
4.2	共有設定.....	4-3
4.3	ポート設定.....	4-4

4.4	ユーティリティ.....	4-5
-----	--------------	-----

5章	用紙設定	5-1
-----------	-------------	------------

5.1	用紙サイズ.....	5-3
5.2	余白.....	5-4
5.3	カスタム用紙の登録方法.....	5-6

6章	フォント	6-1
-----------	-------------	------------

6.1	デバイスフォント.....	6-2
6.1.1	デバイスフォントの種類の選択.....	6-2
6.1.2	デバイスフォントの印刷.....	6-3
6.2	バーコードフォント.....	6-4
6.2.1	バーコードフォントの種類の選択.....	6-4
6.2.2	バーコードフォントの印刷.....	6-5
6.3	2次元バーコードフォント.....	6-7
6.3.1	2次元バーコードフォントの種類の選択.....	6-7
6.3.2	2次元バーコードフォントの印刷.....	6-7
6.4	コントロールフォント.....	6-8
6.4.1	コントロールフォントの種類の選択.....	6-8
6.4.2	コントロールフォントの使用.....	6-8
6.5	コントロールAフォント.....	6-9
6.5.1	コントロールAフォントの種類の選択.....	6-9
6.5.2	コントロールAフォントの使用.....	6-9

付録A	コード表	A-1
------------	-------------	------------

1章 概要

本章ではプリンタードライバの概要について説明します。

1.1 動作環境

プリンタードライバの動作環境について説明します。

1.1.1 システム環境

プリンタードライバのシステム環境について記載します。

項目	仕様
オペレーティングシステム	Microsoft® Windows® 11 (64ビット) Microsoft® Windows® 11 IoT Enterprise (64ビット) Microsoft® Windows® 10 (32ビット及び64ビット) Microsoft® Windows® 10 IoT Enterprise (32ビット及び64ビット) Microsoft® Windows Server® 2019 (64ビット) Microsoft® Windows Server® 2016 (64ビット) Microsoft® Windows® 8.1 (32ビット及び64ビット) Microsoft® Windows® Embedded 8.1 Industry (32ビット及び64ビット) Microsoft® Windows Server® 2012 R2 (64ビット)

注意

◆ Modern UIはサポートしていません。

1.1.2 対象製品

プリンタードライバーの対象製品について記載します。

プリンター	インターフェイス	ドライバー名
SLP720RTシリーズ SLP721RTシリーズ	USB※1	SII SLP720RT
	TCP/IP※2	

※1: USBの規格:フルスピード

※2: TCP/IPのプロトコル:Raw

注意

◆ TCP/IP接続の場合:

- Rawプロトコルのみサポート(LPRの指定は無視)します(ただし、双方向サポートが無効の場合を除く)。
- 9100番、及び26100番のソケットポートを使用します。ファイアウォールを導入する場合、これらのポートの接続を許可する設定で利用してください。

1.2 プリンターの設定

プリンタードライバーの利用にあたり、プリンターのメモリスイッチを下記の[値]に設定してください。

メモリスイッチはSLP720RT/SLP721RTシリーズ用「SII Printer Setting Utility for Windows」により変更できます。変更方法は、SLP720RT/SLP721RTシリーズ用「SII Printer Setting Utility for Windows 取扱説明書」の「3.3.2 メモリスイッチ」を参照してください。

MS	機能	値
1-2	テイクンモード選択 (Taken Mode)	0 : 有効※1 1 : 無効※2
1-3	マークモード選択 (Mark Mode)	0 : 有効※3 1 : 無効※4
4-4	紙幅選択 (Paper Width)	0 : 58 mm
4-6	用紙自動検出選択 (Paper Auto Detection)	0 : 有効※3 1 : 無効※3※4
5-1	自動ステータス応答機能選択 (Auto Status Back)	0 : 有効 1 : 無効※5
5-2	イニシャライズ完了応答選択 (Init. Response)	0 : 有効※6
7	感熱紙選択 (Thermal Paper)	00B : レシート 01B : ライナレスラベル紙 10B : SLPラベル紙

MS	機能	値
13-3	リアルタイムコマンド選択 (Realtime Command)	1 : 有効
17-3	用紙カット後の逆方向紙送り設定 (Backfeed After Cut)	1 : 無効

- ※1: 下記の場合は、本設定を「有効」にしてください。
- ・ライナレスラベル紙で連続印刷する場合
 - ・ラベル紙の印刷などでパーシャルカットと上余白最小を併用する場合
- ※2: 下記の場合は、本設定を「無効」にしてください。
- ・レシート、SLPラベル紙で連続印刷する場合
 - ・ページ間でパーシャルカットをする場合
- ※3: マーク紙の頭出しを行う場合は、下記のいずれかの設定が必要です。
- ・用紙を自動検出する場合は、プリンターのメモリスイッチMS4-6(用紙自動検出選択)を「有効」にしてください。
 - ・用紙を指定する場合は、MS4-6(用紙自動検出選択)を「無効」、MS1-3(マークモード選択)を「有効」にしてください。また、利用する用紙を下記の通りに選択してください。
 - ・マーク付きライナレスラベル紙を使う場合:
MS7(感熱紙選択)を「ライナレスラベル紙」にしてください。
 - ・SLPラベル紙を使う場合:
MS7(感熱紙選択)を「SLPラベル紙」にしてください。
- ※4: マークなし用紙またはマークなしライナレスラベル紙を利用する場合は、本設定を「無効」にし、プリンターのメモリスイッチMS7(感熱紙選択)で使用する用紙を選択してください。
- ※5: 通常は、本設定を「有効」にしてください。ただし『4.3 ポート設定』の「双方向サポートを有効にする」のチェックボックスをオフに選択した場合は、本設定を「無効」にしてください。
- ※6: SDKで[イニシャライズ完了応答]を取得する場合は、本設定を「有効」にしてください。

注意

- ◆ 上記以外の設定にした場合は、プリンタードライバーが正常に動作しなくなる恐れがあります。

1.3 制限事項

プリンタードライバーには、下記の制限事項があります。

- ・Windows標準機能のスリープモード、休止モードでの印字化け等の異常動作については、保証対象外です。
- ・縮小機能を利用するには、専用のプリントプロセッサ(SII RT Print Processor)が選択されている必要があります。プリントプロセッサの選択状態は、プリンターのプロパティの[詳細設定]タブで確認してください。
- ・印刷中断時にプリンターと未接続状態、またはプリンターがデータを受け付けられない状態になっていた場合は、プリンターのリセット処理が正常に実施されず、印字化け等が発生する可能性があります。
- ・TCP/IP接続時に、複数のコンピューターで同一のIPアドレスを指定してインストールした場合は、ツール及びSDKを複数のコンピューターで同時利用することはできません。また、印刷をキャンセルした場合は、正常に印刷されない場合があります。

2章 インストール

本章ではインストール手順を説明します。

注意

- ◆ インストールにはコンピューターの管理者権限が必要です。

参考

- 本プリンタードライバーを利用する複数のプリンターをインストールする場合、2回目以降のインストールはインストール済みのプログラム[Add a Printer]から行ってください。
[Add a Printer]は以下から起動できます。
 - ◆ Windows 11の場合
スタートメニューから、[すべてのアプリ] – [Smart Label Printer RT Series] – [Add a Printer]を選択してください。
 - ◆ Windows 10の場合
スタートメニューから、[Smart Label Printer RT Series] – [Add a Printer]を選択してください。
 - ◆ Windows 8.1の場合
スタート画面のタイルメニュー左下に表示される下向きの矢印をクリックしてください。
[アプリ]ビューから、[Smart Label Printer RT Series] – [Add a Printer]をクリックしてください。

2.1 新規インストール

新規インストール方法について、説明します。

注意

- ◆ 同一の通信ポートに複数のプリンターをインストールしないでください。

2.1.1 インストール共通手順

下記に各接続で共通するインストール開始手順について説明します。

1. [インストーラー起動]画面が表示されたら、[次へ(N) >]ボタンをクリックしてください。

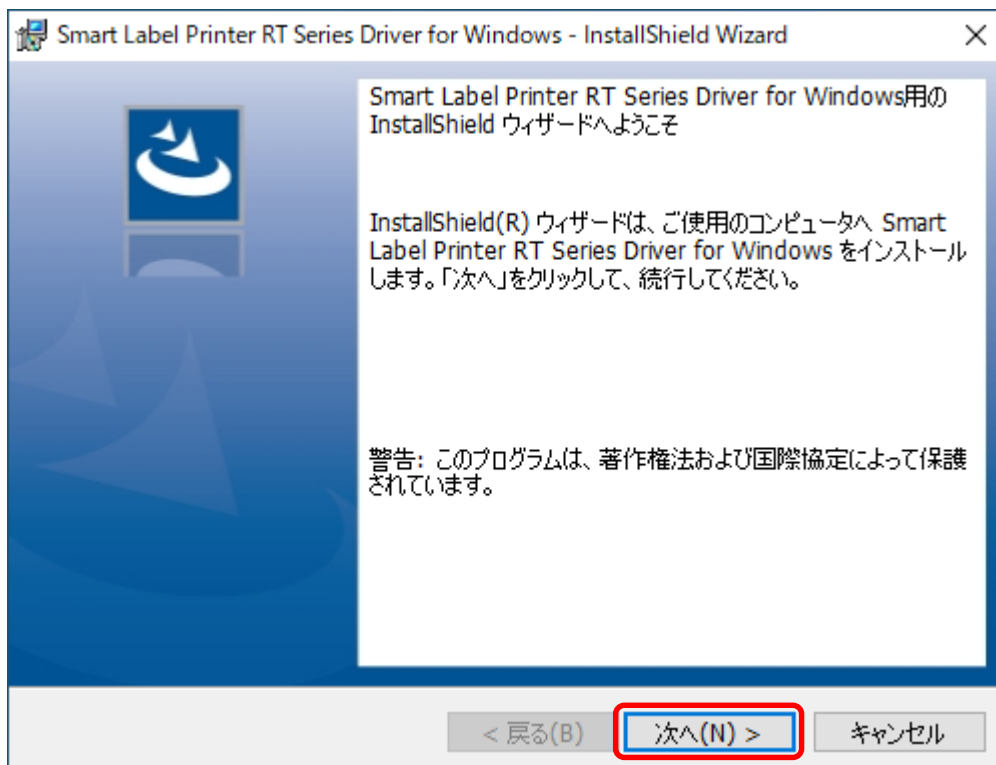


図 2-1 [インストーラー起動]画面

2. [ソフトウェア使用許諾契約書]が表示されたら、内容を確認して「使用許諾契約の条項に同意します(A)」を選択し、[次へ(N) >]ボタンをクリックしてください。

3. [セットアップタイプ選択]画面が表示されたら、「完全(C)」を選択し、[次へ(N) >]ボタンをクリックしてください。
プリンタードライバー以外の機能をインストールしない場合は「カスタム(S)」を選択し、表示に沿ってインストールするプログラムの機能を選択してください。

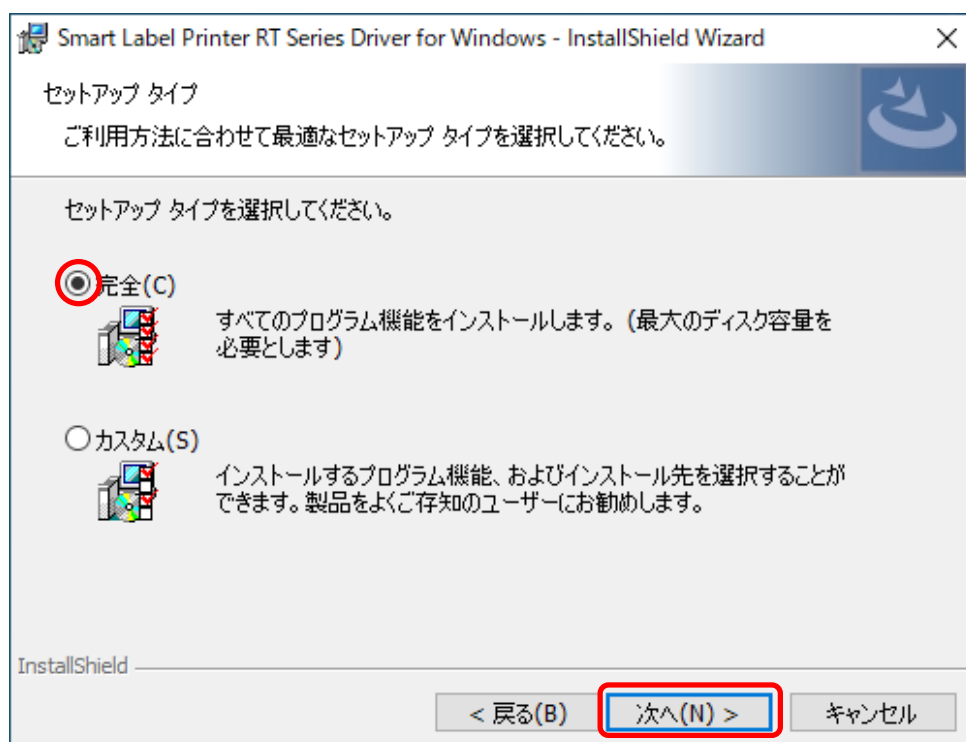


図 2-2 [セットアップタイプ選択]画面

4. [インストール確認]画面が表示されたら、[インストール(I)]ボタンをクリックしてください。

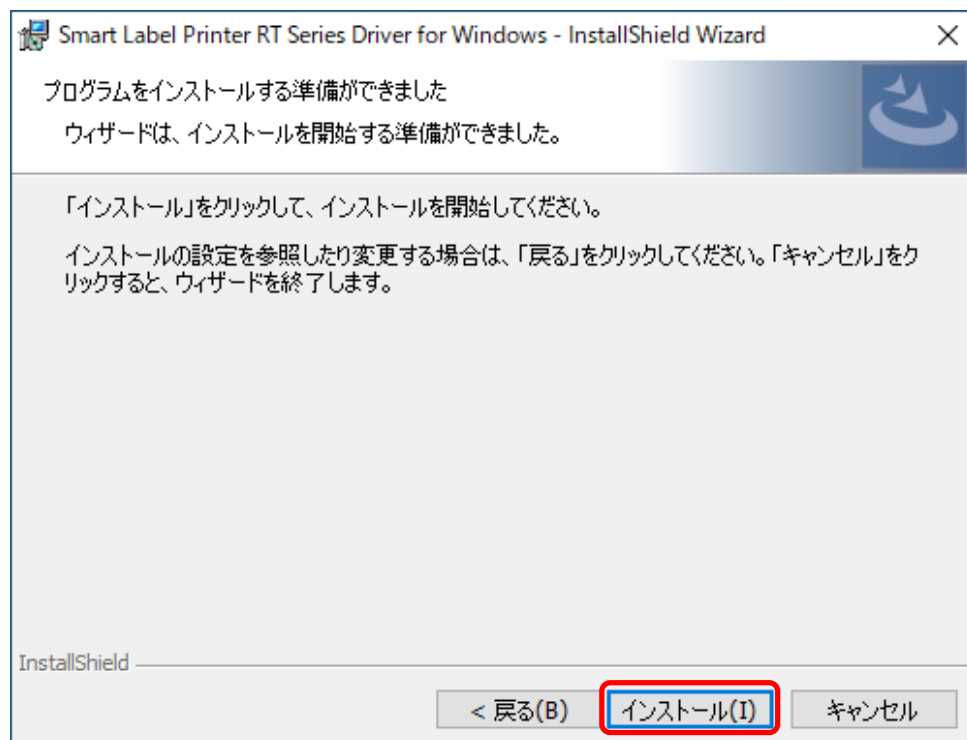


図 2-3 [インストール確認]画面

以降の手順についてはプリンターとの接続方式により異なります。接続方式がUSB接続の場合は、「2.1.2 USB接続でのインストール」、TCP/IP接続の場合は、「2.1.3 TCP/IP接続でのインストール」、共有プリンターを使用する場合は、「2.1.4 共有プリンターのインストール」へ進んでください。

参考

- Windows Server 2012 R2の場合は、以降の手順でプリンターの追加ウィザードは起動されません。コンピューターの「デバイスとプリンター」の「プリンターの追加」からプリンターを追加してください。

2.1.2 USB接続でのインストール

USB接続でのインストール手順について説明します。

注意

- ◆ USB接続の場合、本書の指示があるまではプリンターの電源は切っておいてください。

5. [完了]画面が表示されたら、[完了(F)]ボタンをクリックしてください。

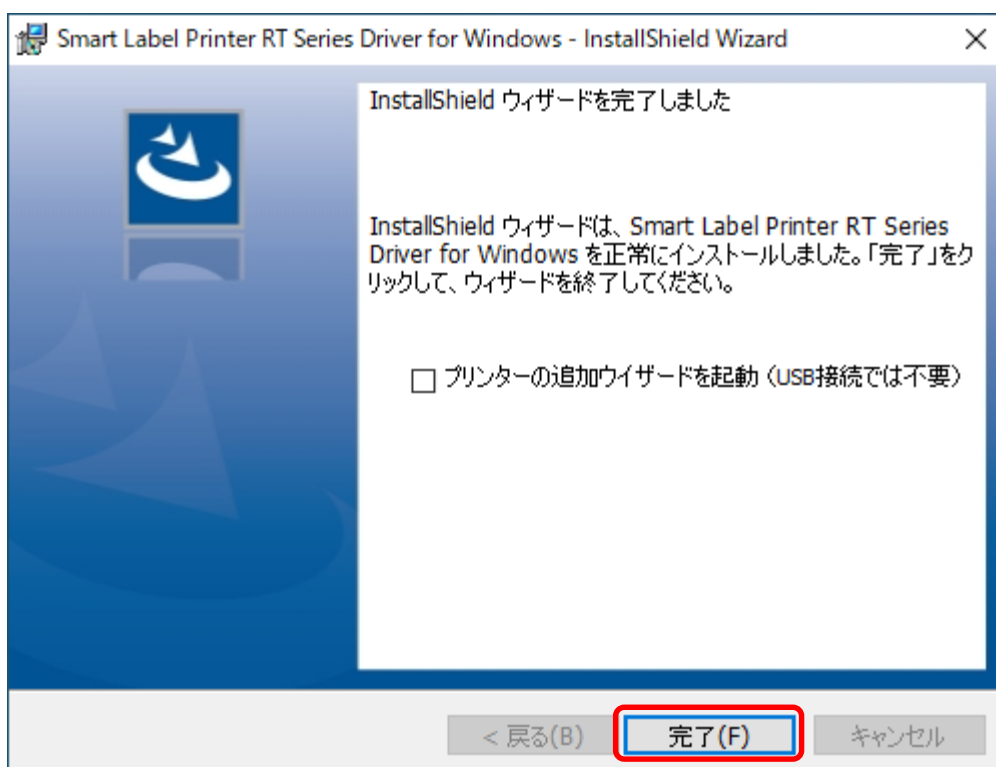


図 2-4 [完了]画面(USB接続)

6. プリンターとコンピューターをUSBケーブルで接続し、プリンターの電源を入れてください。プリンターがコンピューターに認識されると、プラグアンドプレイによりプリンタードライバーが自動的にインストールされます。

注意

- ◆ プリンタードライバのインストール完了後に取り外したUSBケーブルを再度接続する場合は、インストールした時と同一のUSBポートに接続してください。USBポートの位置を変更すると、コンピュータ側で別のプリンターを接続したと認識し、再びプリンタードライバのインストール要求が発生します。

2.1.3 TCP/IP接続でのインストール

TCP/IP接続でのインストール手順について説明します。

5. [完了]画面が表示されたら、「プリンターの追加ウィザードを起動（USB接続では不要）」のチェックボックスをオンにして、[完了(F)]ボタンをクリックしてください。

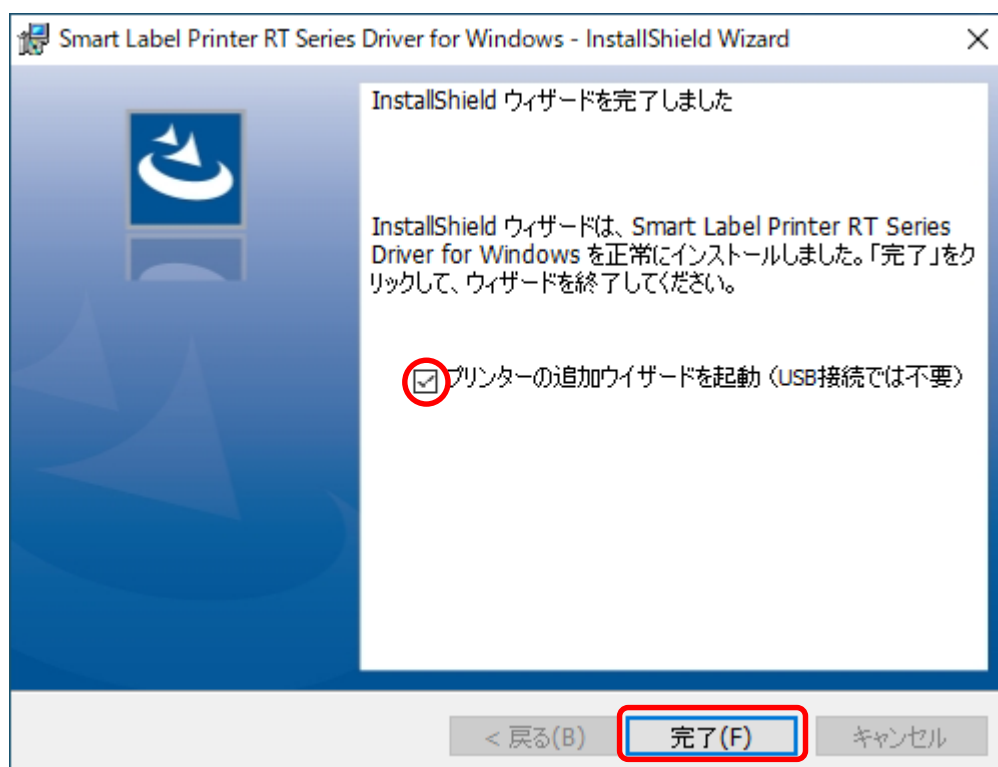


図 2-5 [完了]画面（TCP/IP接続）

6. [プリンターの追加]画面が表示されたら、ドライバー名とインターフェイスを選択し、[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。



図 2-6 [プリンターの追加]画面(TCP/IP接続)

7. [プリンターのインストール]画面にプリンターが表示されたら、下記のどちらかを選択し、[インストール(I)]ボタンをクリックしてください。プリンタードライバーがインストールされます。
- 7-1. 該当するプリンターを選択する。
 - 7-2. [手動で入力をする(M)]のチェックボックスをオンにして、IPアドレス及びポート名を入力する。

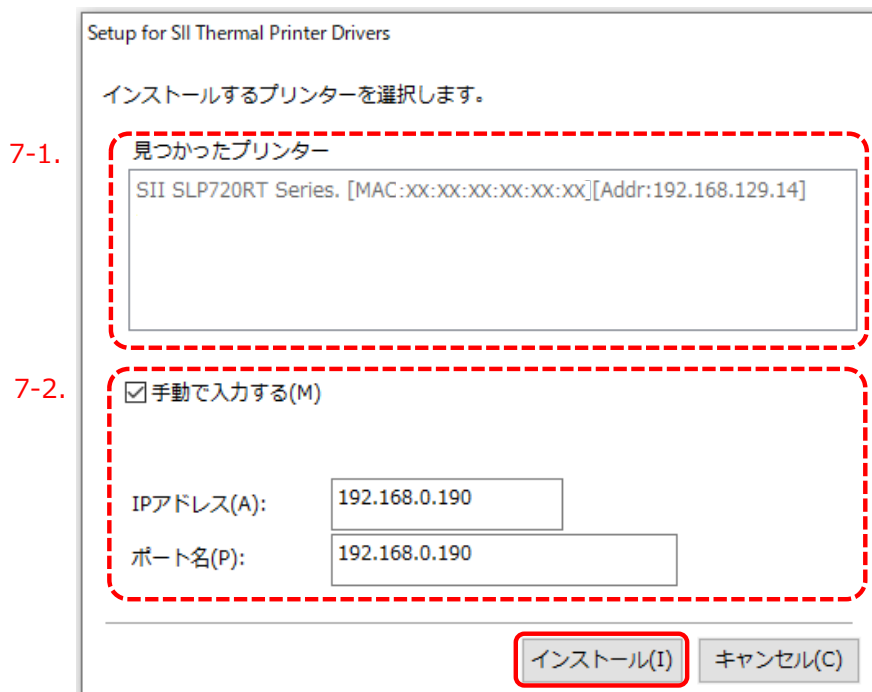


図 2-7 [プリンターのインストール]画面(TCP/IP接続)

2.1.4 共有プリンターのインストール

共有プリンターのインストール手順について説明します。

5. [完了]画面が表示されたら、「プリンターの追加ウィザードを起動(USB接続では不要)」のチェックボックスをオンにして、[完了(F)]ボタンをクリックしてください。



図 2-8 [完了]画面(共有プリンター)

6. [プリンターの追加]画面が表示されたら、ドライバー名とインターフェイスを選択し、[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

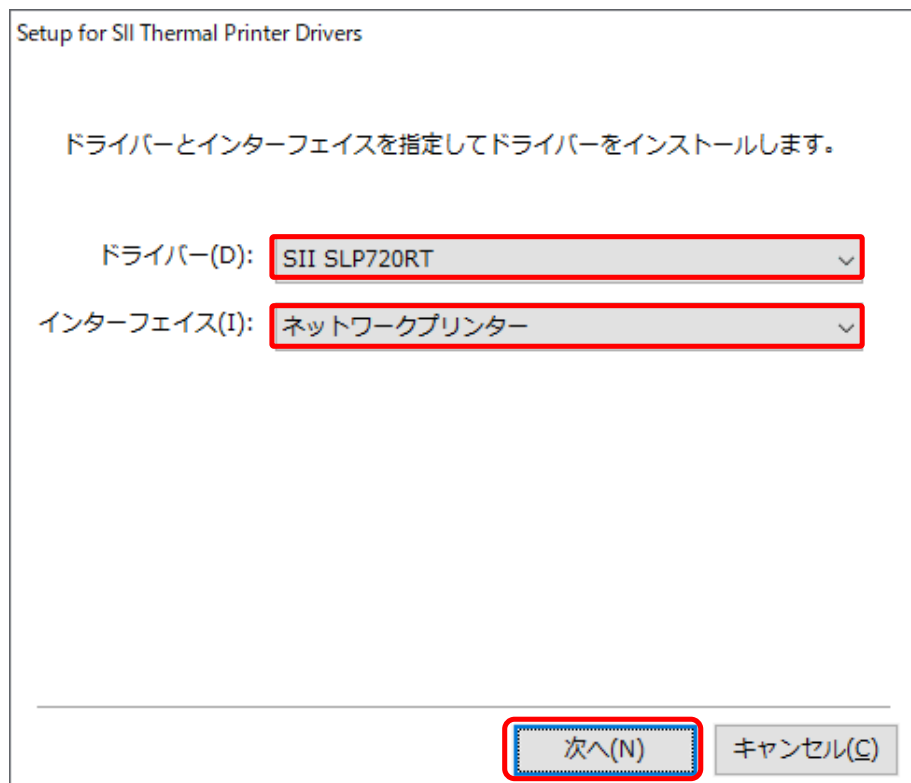


図 2-9 [プリンターの追加]画面(共有プリンター)

7. [プリンターのインストール]画面にプリンターが表示されたら、下記のどちらかを選択し、[インストール(I)]ボタンをクリックしてください。プリンタードライバがインストールされます。
- 7-1. 該当するプリンターを選択する。
- 7-2. [手動で入力をする(M)]のチェックボックスをオンにして、ネットワークプリンター名を入力する。

7-1.

7-2.

Setup for SII Thermal Printer Drivers

インストールするネットワークプリンターを選択します。

ポート作成済みのプリンター

¥¥XXX-XXXXXXXX¥SLP720RT

☒ 手動で入力する(M)

ネットワークプリンター名を入力します。

ex. "¥¥server name¥printer name"

プリンター名(P): ¥¥server name¥printer name

インストール(I) キャンセル(C)

図 2-10 [プリンターのインストール]画面(共有プリンター)

2.2 アンインストール

プリンタードライバが不要となった場合は、下記の手順でアンインストールを行ってください。

1. コントロールパネルの[プログラムと機能]から「プログラムのアンインストール」をクリックしてください。
2. [プログラムのアンインストールまたは変更]画面が表示されたら、[Smart Label Printer RT Series Driver for Windows]を選択し、[アンインストール]ボタンをクリックしてください。アンインストールが実行されます。

参考

- Windows Server 2012 R2の場合は、上記の手順でアンインストールを行っても、プリンター及びプリンタードライバはアンインストールされません。コンピューターの「デバイスとプリンター」からアンインストールを行ってください。

3章 印刷設定

本章では印刷設定について説明します。

印刷設定は[印刷設定]画面の各種タブから、それぞれ確認及び変更ができます。

[印刷設定]画面は下記の手順で表示できます。

1. [プリンターフォルダー]内のプリンターアイコンを右クリックしてサブメニューを表示してください。
2. 表示したサブメニューから[印刷設定(G)]を選択してください。

[印刷設定]画面で表示されるタブには下記の種類があります。

- ・ [レイアウト]タブ : 印刷の向き、ページの順序及びページ形式を設定します。
- ・ [用紙/品質]タブ : 印刷モードを設定します。
- ・ [書式設定]タブ : 印刷書式を設定します。
- ・ [フォント]タブ : IPDフォントを設定します。

注意

- ◆ Windows 8.1以降でWindowsストアアプリから印刷を行う場合は、[印刷設定]画面で設定可能な項目の一部しか表示されません。

各画面の詳細は次項以降で説明します。

3.1 レイアウト

印刷の向き、ページの順序及びページ形式を設定します。

3.1.1 レイアウトの設定

[レイアウト]タブを選択し、下記の画面を表示してください。

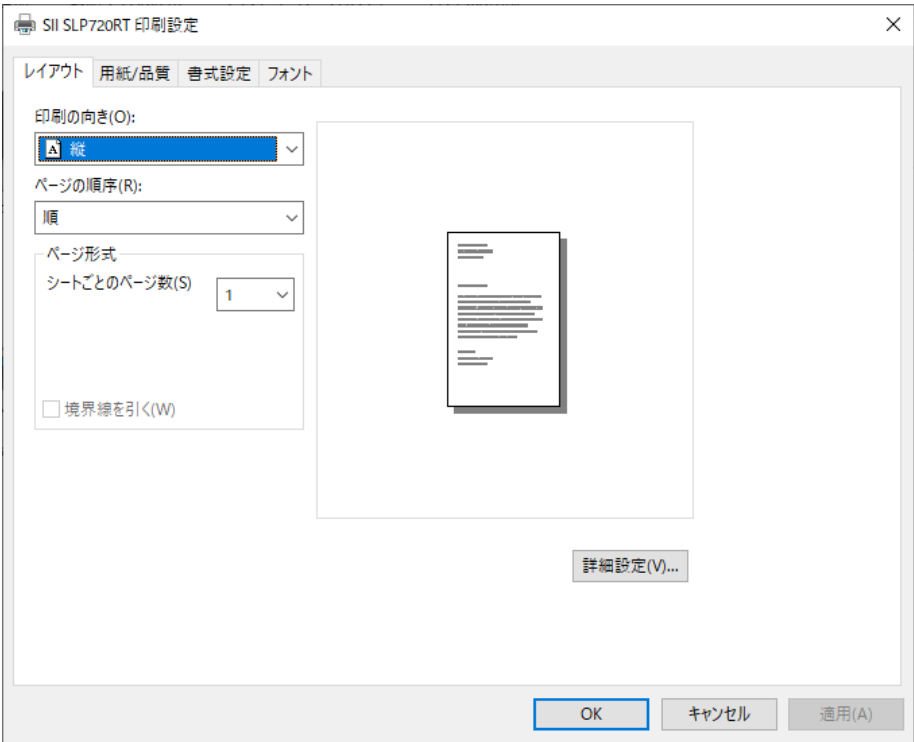


図 3-1 [レイアウト]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
印刷の向き(O)	印刷の向きを選択します。※1 ・ 縦 ・ 横
ページの順序(R)	印刷するページの順序を選択します。 ・ 順 ・ 逆
ページ形式	シートごとのページ数を設定します。
シートごとのページ数(S)	1シートごとに印刷するページ数を選択します。 ・ 1 ・ 2 ・ 4 ・ 6 ・ 9 ・ 16
詳細設定(V)...	詳細設定ダイアログを表示します。 詳細は「3.5 詳細設定」を参照してください。

※1: 「横」に設定すると、IPDフォントは使用できません。

3.2 用紙/品質

印刷モードを設定します。

3.2.1 用紙/品質の設定

[用紙/品質]タブを選択し、下記の画面を表示してください。

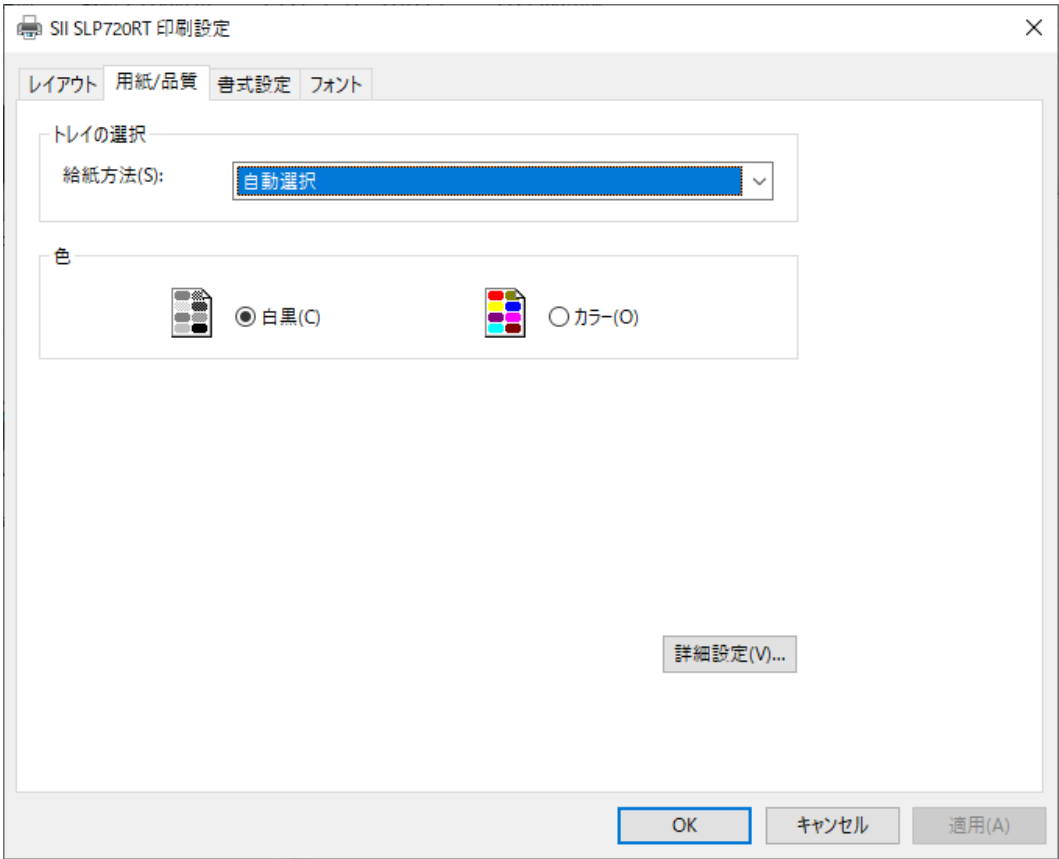


図 3-2 [用紙/品質]画面

項目	説明 (“ ”:初期値)
トレイの選択	給紙方法を設定します。
給紙方法(S)	給紙方法は「自動選択」で固定です。 ・ 自動選択
色	印刷モードを選択します。※1※2 ・ 白黒 (システム標準のハーフトーンを使用します) ・ カラー (プリンタードライバーのハーフトーンを使用します)
詳細設定(V)...	詳細設定ダイアログを表示します。 詳細は「3.5 詳細設定」を参照してください。

※1: 「カラー」を選択すると「3.5 詳細設定」の[ハーフトーン]で、「自動選択」以外は選択できません。

※2: 本設定は「3.5 詳細設定」の[カラー印刷モード]と連動します。

3.3 書式設定

印刷書式を設定します。

3.3.1 書式の設定

[書式設定]タブを選択し、下記の画面を表示してください。

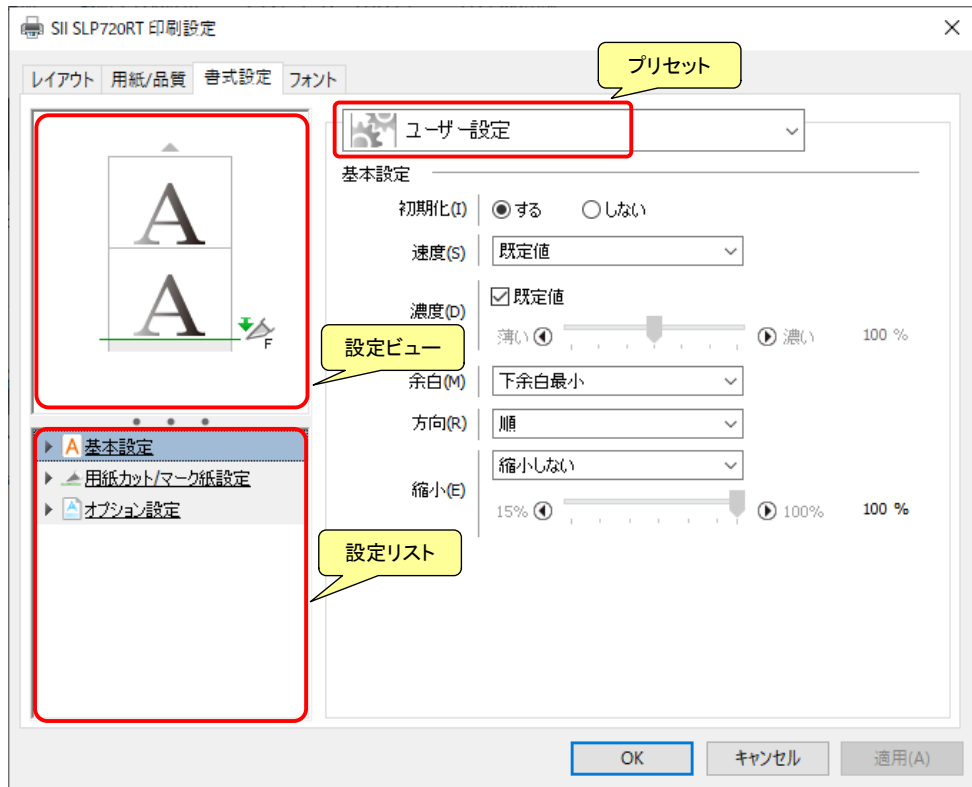


図 3-3 [書式設定]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
設定ビュー	主な機能の設定状況を各種マークで表示します。 マークについては「3.3.2 設定ビューのマーク一覧」を参照してください。
設定リスト	書式設定の全機能をカテゴリ別に表示します。 カテゴリ名を選択すると、該当する設定画面を表示します。 表示されるカテゴリについては「3.3.3 設定リストのカテゴリ」を参照してください。 カテゴリの先頭の ▶ をクリックすると、カテゴリ内の項目を表示します。 設定が変更された項目は、変更が確定されるまで赤字で表示します。


項目	説明 (“ ”:初期値)
プリセット	<p>各用途向けにあらかじめ登録されている設定内容に一括設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 40 mm レシート設定※¹ ・ 40 mm マーク紙設定※¹ ・ 58 mm レシート設定 ・ 58 mm マーク紙設定(ラベル紙) ・ A4→40 mm 縮小設定※¹ ・ A4→58 mm 縮小設定 ・ ユーザー設定※² <p>各「プリセット」の設定内容は「3.3.4 プリセットの利用」を参照してください。</p>





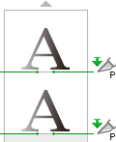
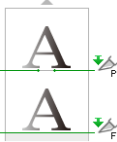



※1: ライナレスラベル紙のみサポートします。

※2: 「ユーザー設定」のインストール直後の設定は、用紙サイズ以外はレシート設定の値になります。用紙サイズは使用している言語環境によって異なります。用紙サイズについては、「3.5.1 詳細オプションの設定」の項目を参照してください。

3.3.2 設定ビューのマーク一覧

[書式設定]画面の「設定ビュー」で表示されるマークは下記の通りです。

項目	マーク			
印刷の向き(O)	 縦※ ¹		 横※ ¹	
濃度(D)	 薄い		 濃い	
余白(M)	 最小余白	 上余白最小	 下余白最小	 最大余白
方向(R)	 順※ ²		 逆※ ²	

項目	マーク		
用紙カット(P)	 カットしない	 フルカット (ジョブ単位)	 パーシャルカット (ジョブ単位)
	 フルカット (ページ単位)	 パーシャルカット (ページ単位)	 パーシャルカット (ページ間)
カット位置まで紙送り(F)	 する		 しない
ドロワ(D)	 ※3		

※1: [方向(R)]を「順」で選択している場合のマークです。

※2: [印刷の向き(O)]を「縦」で選択している場合のマークです。

※3: 「3.3.7 オプションの設定」で[印刷開始]にドロワを設定した場合は左上、[印刷終了]にドロワを設定した場合は右下に表示されます。

3.3.3 設定リストのカテゴリ

「設定リスト」で表示される機能のカテゴリは下記の通りです。

カテゴリ	説明
基本設定	初期化等の基本的な項目について設定します。
用紙カット/マーク紙設定	用紙のカット動作、及びマーク紙利用時のブラックマーク検出動作について設定します。
オプション設定	印刷の各タイミングでの動作を設定します。

各カテゴリの設定項目については、以降で説明します。

3.3.4 プリセットの利用

「プリセット」とは、あらかじめ各用途向けに決められたパラメーターに一括設定できる機能です。「プリセット」で設定された項目のうち、いずれかの設定が変更されればその時点で「プリセット」は解除され、「プリセット」は「ユーザー設定」に変更されます。「プリセット」を変更すると、書式設定以外の項目も指定した「プリセット」の設定内容に変更されます。その際、各設定が変更されるメッセージは表示されません。設定できる「プリセット」の種類とその設定内容は下記の通りです。

プリセット種類	項目	内容
40 mm レシート設定	詳細設定	
	用紙サイズ	40 mm (36 x 3276 mm)
	書式設定	
	基本設定	
	縮小(E)	縮小しない
	用紙カット/マーク検出設定	
	用紙カット(P)	フルカット (ジョブ単位)
	カット位置まで紙送り(F)	する
	頭出し(M)	しない
	頭出し位置の補正(O)	0 dot
	オプション設定	
	印刷開始	
	ドロフ(D)	ドロフ1を利用
40 mm マーク紙設定	詳細設定	
	用紙サイズ	40 mm (36 x 3276 mm)
	書式設定	
	基本設定	
	縮小(E)	縮小しない
	用紙カット/マーク検出設定	
	用紙カット(P)	フルカット (ページ単位)
	カット位置まで紙送り(F)	しない
	頭出し(M)	ページ単位
	頭出し位置の補正(O)	0 dot
	オプション設定	
	印刷開始	
	ドロフ(D)	利用しない
	ON時間	50 ms
	OFF時間	200 ms

プリセット種類	項目	内容
58 mm レシート設定	詳細設定	
	用紙サイズ	58 mm (54 x 3276 mm)
	書式設定	
	基本設定	
	縮小(E)	縮小しない
	用紙カット/マーク検出設定	
	用紙カット(P)	フルカット (ジョブ単位)
	カット位置まで紙送り(F)	する
	頭出し(M)	しない
	頭出し位置の補正(O)	0 dot
	オプション設定	
	印刷開始	
	ドロワ(D)	ドロワ1を利用
58 mm マーク紙設定 (ラベル紙)	詳細設定	
	用紙サイズ	58 mm (52 x 3276 mm)
	書式設定	
	基本設定	
	縮小(E)	縮小しない
	用紙カット/マーク検出設定	
	用紙カット(P)	フルカット (ページ単位)
	カット位置まで紙送り(F)	しない
	頭出し(M)	ページ単位
	頭出し位置の補正(O)	0 dot
	オプション設定	
	印刷開始	
	ドロワ(D)	利用しない
	ON時間	50 ms
	OFF時間	200 ms

プリセット種類	項目	内容
A4→40 mm 縮小設定	詳細設定	
	用紙サイズ	A4
	書式設定	
	基本設定	
	縮小(E)	40 mm用紙にフィット
	用紙カット/マーク検出設定	
	用紙カット(P)	フルカット (ページ単位)
	カット位置まで紙送り(F)	しない
	頭出し(M)	ページ単位
	頭出し位置の補正(O)	0 dot
	オプション設定	
	印刷開始	
	ドロフ(D)	利用しない
A4→58 mm 縮小設定	詳細設定	
	用紙サイズ	A4
	書式設定	
	基本設定	
	縮小(E)	58 mm用紙にフィット
	用紙カット/マーク検出設定	
	用紙カット(P)	フルカット (ページ単位)
	カット位置まで紙送り(F)	しない
	頭出し(M)	ページ単位
	頭出し位置の補正(O)	0 dot
	オプション設定	
	印刷開始	
	ドロフ(D)	利用しない
	ON時間	50 ms
	OFF時間	200 ms

各「プリセット」共通の設定内容は下記の通りです。

種類	項目	内容
共通設定	レイアウト	
	印刷の向き(O)	縦
	書式設定	
	基本設定	
	初期化(I)	する
	速度(S)	既定値
	濃度(D)	既定値
	余白(M)	下余白最小
	方向(R)	順
	オプション設定	
	(全タイミング共通)	
	ロゴ有無(L)	なし
	紙送り(F)	0 dot
	外部ブザー(X)	OFF
	コマンド送信(S)	(空欄)
	印刷終了	
	ドロワ種類(D)	利用しない
	ON時間	50 ms
	OFF時間	200 ms

3.3.5 基本設定

「設定リスト」の[基本設定]を選択し、下記の画面を表示してください。

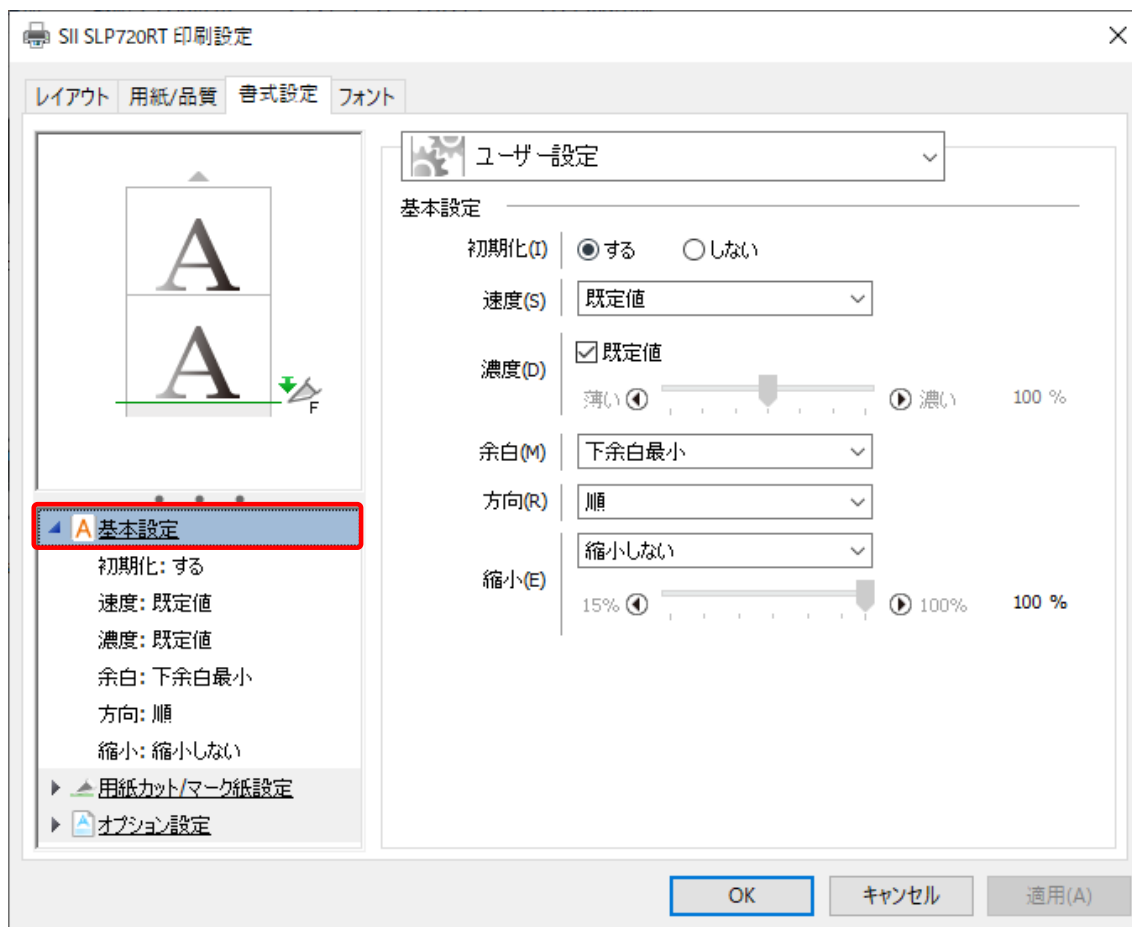


図 3-4 [基本設定]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
基本設定	初期化等の基本的な項目について設定します。
初期化(I)	印刷前にプリンターの初期化の有無を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ する ・ しない
速度(S)	印刷速度を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 既定値^{※1} ・ 中速^{※2} ・ 高速^{※2}
濃度(D)	印刷濃度を設定します。(単位:%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 既定値^{※1} ・ 70 ~ 130
余白(M)	余白を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 最小余白^{※3} ・ 上余白最小 ・ 下余白最小^{※3} ・ 最大余白

項目	説明 (“ ”: 初期値)
方向(R) ^{※4}	印刷排出の方向を選択します。 ・ 順 ・ 逆
縮小(E) ^{※5}	縮小印刷を選択します。 ・ 縮小しない ・ 40 mm用紙にフィット ^{※6} ・ 58 mm用紙にフィット ・ 58 mmラベル紙にフィット ・ 指定倍率[15 ~ 100](単位:%)

- ※1: プリンターの設定に従います。
 ※2: 印字速度についての詳細は、「取扱説明書」を参照してください。
 ※3: 印刷内容が25mmに満たない場合は、25mmとなるまで紙送りします。
 ※4: 「逆」に設定すると、IPDフォントは使用できません。
 ※5: 「縮小しない」以外に設定すると、IPDフォントは使用できません。
 ※6: ライナレスラベル紙のみサポートします。

参考

- 方向(R)
[方向(R)]を「逆」に設定すると、印刷するデータを180度回転させることができます。
- 余白(M)
[余白(M)]を設定すると、余白の量が変わります。

	印刷開始から 最初の印刷データまでの 余白を節約	最後の印刷データから 用紙カットまでの 余白を節約
最小余白	○	○
上余白最小	○	—
下余白最小	—	○
最大余白	—	—

余白の詳細については、「5.2 余白」を参照してください。

3.3.6 用紙カット/マーク紙設定

「設定リスト」の[用紙カット/マーク紙設定]を選択し、下記の画面を表示してください。

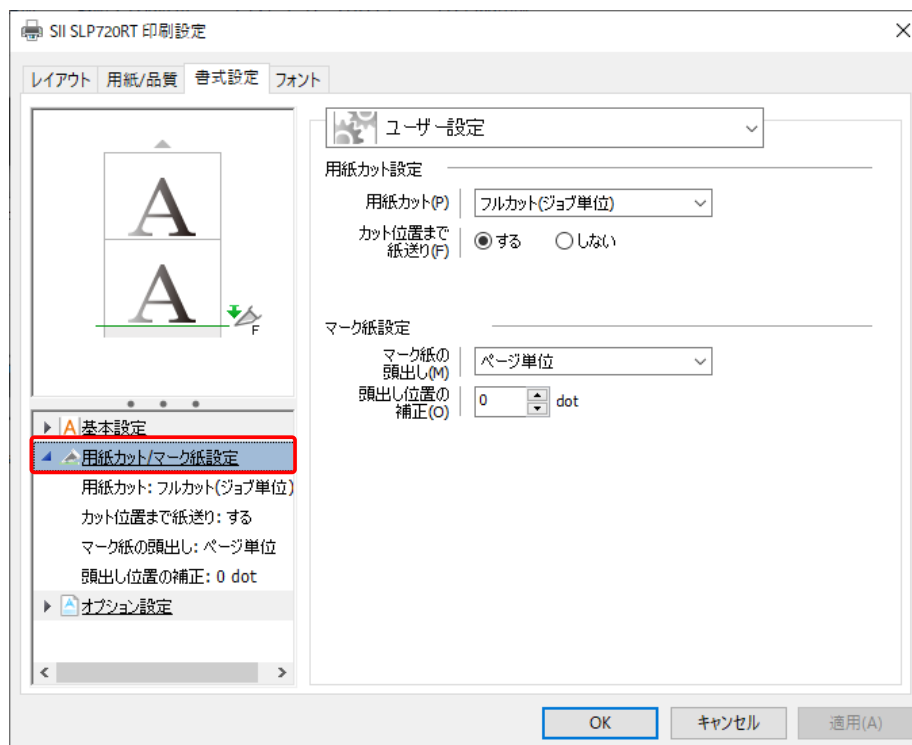


図 3-5 [用紙カット/マーク紙設定]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
用紙カット設定	用紙のカットとカット位置までの紙送りについて設定します。
用紙カット(P)	用紙のカット方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ カットしない ・ フルカット (ジョブ単位) ・ パーシャルカット (ジョブ単位)^{※1} ・ フルカット (ページ単位) ・ パーシャルカット (ページ単位) ・ パーシャルカット (ページ間)^{※2}
カット位置まで紙送り(F)	カット位置までの紙送りの有無を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ する ・ しない
マーク紙設定	マーク紙利用時のブラックマーク検出動作について設定します。
マーク紙の頭出し(M) ^{※3}	ブラックマークの検出動作を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ しない ・ ページ単位^{※3} ・ ジョブ単位^{※3}
頭出し位置の補正(O)	頭出し位置の補正を設定します。(単位: dot) <ul style="list-style-type: none"> ・ -68 ~ 255 (0)

※1: パーシャルカット状態のまま次の印刷で逆方向紙送りを行うと、紙ジャムや用紙のちぎれなどが発生することがあります。

※2: 最後のページはフルカットになります。

※3: 用紙カット(P)の「カットしない」以外と併用すると、マーク紙の頭出しを行った後にカット位置まで紙送りをします。

3.3.7 オプションの設定

「設定リスト」の[オプション設定]を選択し、下記の画面を表示してください。

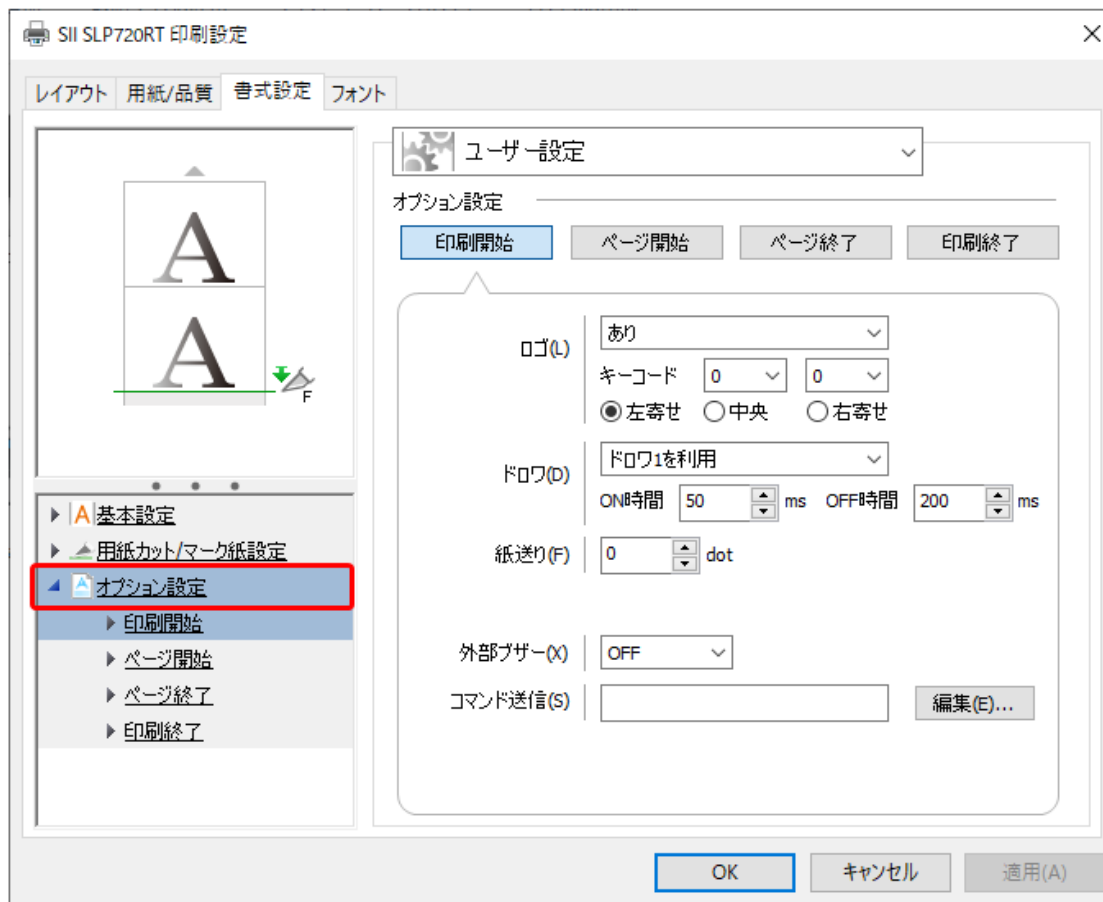


図 3-6 [オプション設定]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
オプション設定	ロゴ、ドロー、紙送り、外部ブザー、及びコマンド送信について設定します。
印刷開始 ページ開始 ページ終了 印刷終了	各タイミングでの動作を設定します。
ロゴ(L)	ロゴについて設定します。
ロゴ有無	ロゴの有無を選択します。 ・ なし ・ あり
キーコード	ロゴに使用するキーコードを選択します。 ・ ” ”(0x20, 0x20) ~ ”99”(0x39, 0x39) (”00”(0x30, 0x30))
ロゴ位置	ロゴを印刷する位置を選択します。 ・ 左寄せ ・ 中央 ・ 右寄せ

項目	説明 (“ ”:初期値)
ドロフ(D) ^{※1}	ドロフについて設定します。 ^{※2}
ドロフ選択	利用するドロフを選択します。 ^{※3} <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用しない^{※4} ・ ドロフ1を利用 ・ ドロフ2を利用
ON時間	ドロフのON時間を偶数値で入力します。(単位:ms) ^{※5} <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 ~ 510 (50)
OFF時間	ドロフのOFF時間を偶数値で入力します。(単位:ms) ^{※5} <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 ~ 510 (200)
紙送り(F)	紙送りの長さを設定します。(単位:dot) ^{※6} <ul style="list-style-type: none"> ・ -68 ~ 255 (0)
外部ブザー(X) ^{※7}	外部ブザーの鳴動を設定します。
ブザーパターン	ブザーパターンを選択します。 ^{※8} <ul style="list-style-type: none"> ・ OFF ・ パターン1 ・ パターン2 ・ パターン3 ・ パターン4
ブザー回数 ^{※9}	ブザーの鳴動回数を設定します。(単位:times) <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 ~ 255
コマンド送信(S)	送信するプリンターコマンドを設定します。
コマンドデータ	送信するプリンターコマンドを表示します。 入力には[編集(E)...]ボタンをクリックして表示されるバイナリエディターを使用します。
編集(E)...	バイナリエディターでプリンターコマンドを入力します。 入力したプリンターコマンドは[コマンドデータ]に表示されます。 指定可能バイト数は最大128バイトです。 バイナリエディターについては「3.3.8 バイナリエディターの使用方法」を参照してください。

- ※1: SLP721RTのみサポートします。
ドロフの制御時間については、お客様がご利用されているドロフの仕様に従ってください。
- ※2: [印刷開始]または[印刷終了]どちらか一方のみ指定できます。
- ※3: ドロフを利用する場合、外部ブザーは「OFF」になります。
- ※4: [印刷開始]及び[印刷終了]の初期値です。
- ※5: 奇数値を入力した場合、内部で範囲内の値に丸め込みます。
- ※6: プリンターのメモリスイッチMS17-1~2(用紙節約)の設定が「縮小なし」以外の場合で、紙送りを「0」以外にすると指定した値通りの動作をしない場合があります。
- ※7: SLP721RTのみサポートします。
- ※8: 外部ブザーを利用する場合、ドロフは「利用しない」になります。
- ※9: 外部ブザーの鳴動は下記のいずれかの条件で停止します。
・ 設定したブザーの回数分の鳴動
・ カバーオープン
・ プリンターコマンド「外付けブザーの停止」の実行

参考

- ロゴ
定型のイメージをロゴとして印刷する機能です。ロゴに使用するイメージはNVイメージを利用します。NVイメージについてはSLP720RT/SLP721RTシリーズ用「SII Printer Setting Utility for Windows 取扱説明書」の「3.3.5 NVイメージ」を参照してください。

3.3.8 バイナリエディターの使用法

プリンターコマンドや任意のデータを入力するコントロールでは、バイナリエディターを使用します。

バイナリエディターは下記の場合に使用します。

- [書式設定]の[オプション設定]の[コマンド送信(S)]
- [コントロールAフォント設定]
- [ユーティリティ]の[テスト印刷]の[カスタムコマンド(U)]の設定

[編集(E)...]ボタンをクリックし、下記の画面を表示してください。

16進数で入力し、[OK]ボタンをクリックすると入力が確定します。

Address	+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+A	+B	+C	+D	+E	+F
00172F																
A11631																
02C2																
0000	1B	04														
0010																
0020																
0030																
0040																
0050																
0060																
0070																

2 Bytes OK キャンセル

図 3-7 [バイナリエディター]画面

3.4 フォント

IPDフォントを設定します。

注意

- ◆ 以下の設定の場合、IPDフォントの設定は利用できません。
 - ・「3.1.1 レイアウトの設定」の[印刷の向き(O)] :「横」
 - ・「3.3.5 基本設定」の[方向(R)] :「逆」
 - ・「3.3.5 基本設定」の[縮小(E)] :「縮小しない」以外

参考

- ・ IPDフォントについては「6章 フォント」を参照してください。

3.4.1 フォントの設定

[フォント]タブを選択し、下記の画面を表示してください。

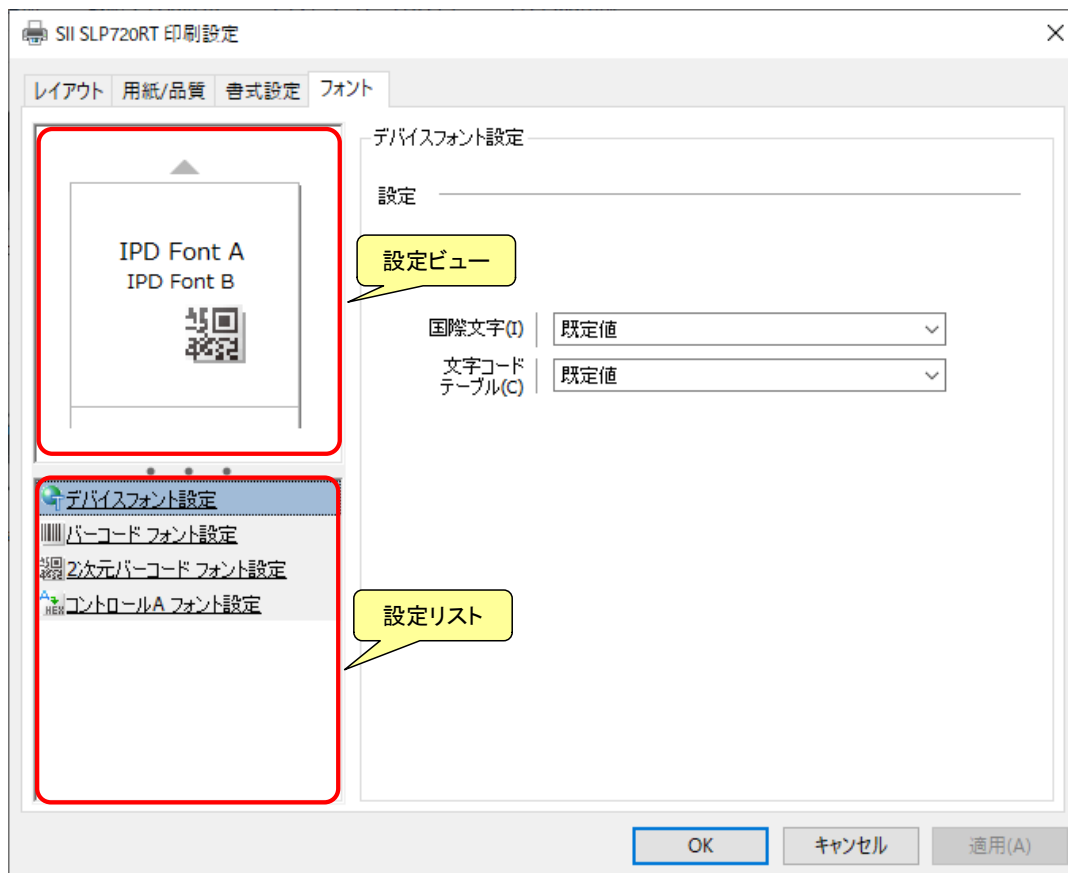


図 3-8 [フォント]画面

項目	説明
設定ビュー	現在の設定状況でIPDフォントが使用できるかをマークで表示します。 マークについては「3.4.2 設定ビューのマーク一覧」を参照してください。
設定リスト	フォントのカテゴリ名を表示します。 カテゴリ名を選択すると該当する設定画面を表示します。

3.4.2 設定ビューのマーク一覧

[フォント]画面の「設定ビュー」で表示されるマークは下記の通りです。

状況	マーク
IPDフォント使用可	
IPDフォント使用不可	

3.4.3 設定リストのカテゴリ

[フォント]画面の「設定リスト」で表示されるカテゴリは下記の通りです。

カテゴリ	説明
デバイスフォント設定	デバイスフォントで使用する国際文字と文字コードテーブルについて設定します。
バーコードフォント設定	バーコードフォントで使用する種別やバーコードのサイズ等について設定します。
2次元バーコードフォント設定	2次元バーコードフォントで使用する種別やバーコードのサイズ等について設定します。
コントロールAフォント設定	コントロールAフォントに割り当てるプリンターコマンドについて設定します。

各カテゴリの設定項目については、次項以降で説明します。

3.4.4 デバイスフォントの設定

「設定リスト」の[デバイスフォント設定]を選択し、下記の画面を表示してください。

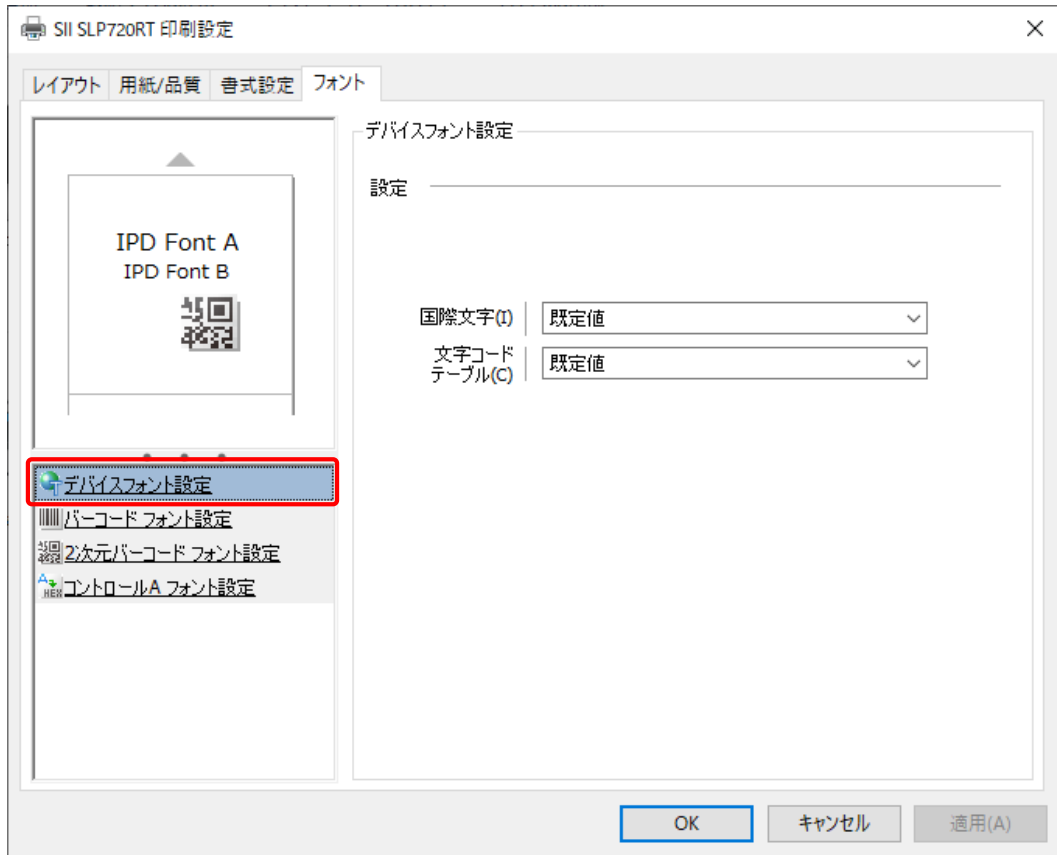


図 3-9 [デバイスフォント設定]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
設定	デバイスフォントについて設定します。
国際文字(I)	国際文字を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 既定値^{※1} ・ アメリカ (USA) ・ フランス (France) ・ ドイツ (Germany) ・ イギリス (United Kingdom) ・ デンマーク I (Denmark I) ・ スウェーデン (Sweden) ・ イタリア (Italy) ・ スペイン I (Spain I) ・ 日本 (Japan) ・ ノルウェー (Norway) ・ デンマーク II (Denmark II) ・ スペイン II (Spain II) ・ ラテンアメリカ (Latin America) ・ アラビア (Arabia)

項目	説明 (“ ”: 初期値)
文字コードテーブル(C)	<p>文字コードテーブルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 既定値※1 ▪ USA, Standard Europe (Code Page437) ▪ Katakana ▪ Multilingual (Code Page850) ▪ Portuguese (Code Page860) ▪ Canadian–French (Code Page863) ▪ Nordic (Code Page865) ▪ Turkish (Code Page857) ▪ Greek (Code Page737) ▪ Latin (Code Page1252) ▪ Russian (Code Page866) ▪ Eastern Europe (Code Page852) ▪ Euro (Code Page858) ▪ Cyrillic (Code Page855) ▪ Arabic (Code Page864) ▪ Central European (Code Page1250) ▪ Cyrillic (Code Page1251) ▪ Greek (Code Page1253) ▪ Turkish (Code Page1254) ▪ ユーザーページ

※1: プリンターの設定に従います。

3.4.5 バーコードフォントの設定

「設定リスト」の[バーコードフォント設定]を選択し、下記の画面を表示してください。

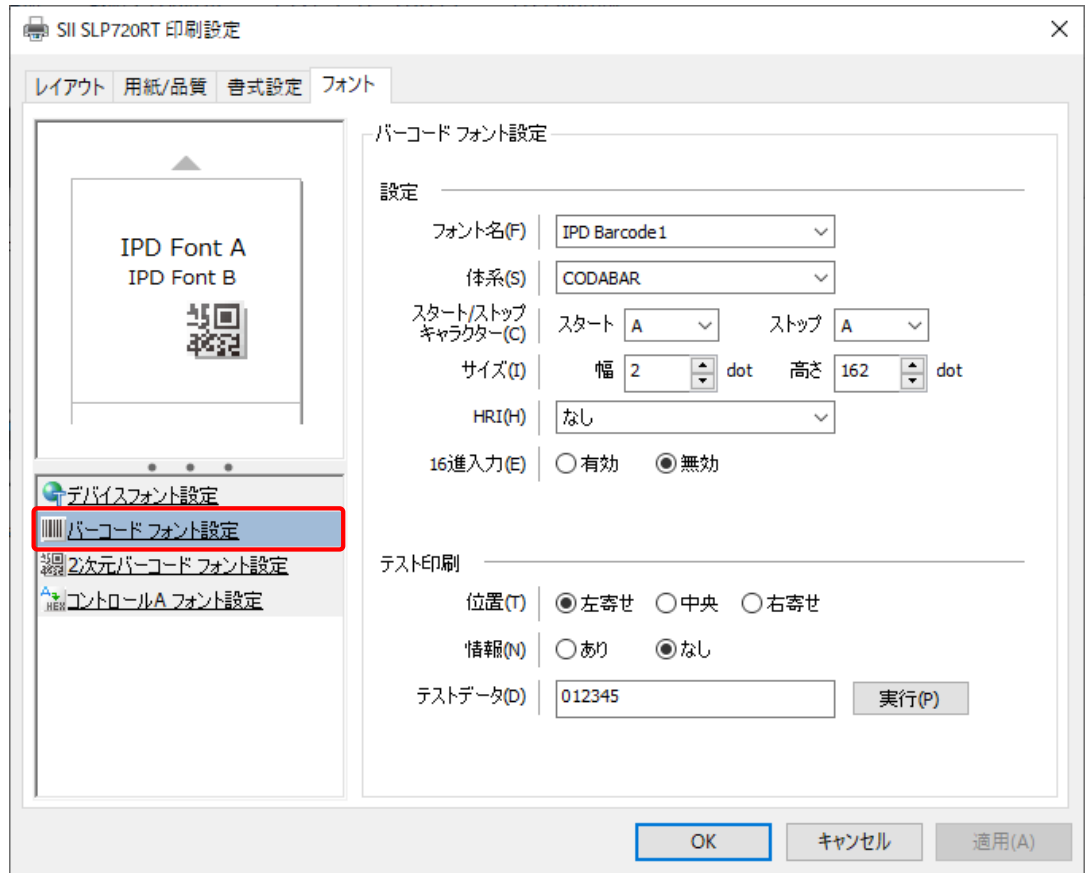


図 3-10 [バーコードフォント設定]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
設定	バーコードフォントについて設定します。
<div> <div></div> <div> フォント名(F)^{※1} </div> </div>	フォント名を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ IPD Barcode1 ・ IPD Barcode2 ・ IPD Barcode3 ・ IPD Barcode4 ・ IPD Barcode5 ・ IPD Barcode6 ・ IPD Barcode7 ・ IPD Barcode8 ・ IPD Barcode9 ・ IPD Barcode10

項目	説明 (“ ”: 初期値)				
体系(S)	バーコードの体系を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ UPC-A※2 ・ UPC-E※3 ・ JAN13 (EAN13)※4 ・ JAN8 (EAN8)※5 ・ Code39※6 ・ ITF※7 ・ CODABAR※8 ・ CODE128※9 ・ CODE93※10 ・ JAN13 (EAN13) add-on 2※11 ・ JAN13 (EAN13) add-on 5 ・ GS1 Databar Omni-directional ・ GS1 Databar Truncated ・ GS1 Databar Limited ・ GS1 Databar Expanded 				
スタート/ストップ キャラクター(C)※12	スタートキャラクター/ストップキャラクターを設定します。 <table border="1" data-bbox="284 898 1361 1279"> <tr> <td data-bbox="284 898 520 1088">スタート</td><td data-bbox="520 898 1361 1088"> 「CODABAR」のスタートキャラクターを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ A ・ B ・ C ・ D </td></tr> <tr> <td data-bbox="284 1088 520 1279">ストップ</td><td data-bbox="520 1088 1361 1279"> 「CODABAR」のストップキャラクターを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ A ・ B ・ C ・ D </td></tr> </table>	スタート	「CODABAR」のスタートキャラクターを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ A ・ B ・ C ・ D 	ストップ	「CODABAR」のストップキャラクターを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ A ・ B ・ C ・ D
スタート	「CODABAR」のスタートキャラクターを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ A ・ B ・ C ・ D 				
ストップ	「CODABAR」のストップキャラクターを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ A ・ B ・ C ・ D 				
サイズ(I) <table border="1" data-bbox="284 1328 1361 1738"> <tr> <td data-bbox="284 1328 520 1442">幅</td><td data-bbox="520 1328 1361 1442"> バーコードの細エレメント幅またはモジュール幅をドット単位で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 ~ 6 (2) </td></tr> <tr> <td data-bbox="284 1442 520 1738">高さ</td><td data-bbox="520 1442 1361 1738"> バーコードの高さをドット単位で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 ~ 255 (162) ただし、下記のバーコードは[幅]の選択によって設定可能な範囲が異なります。※13 <ul style="list-style-type: none"> ➤ GS1 Databar Omni-directional ➤ GS1 Databar Truncated ➤ GS1 Databar Limited ➤ GS1 Databar Expanded </td></tr> </table>	幅	バーコードの細エレメント幅またはモジュール幅をドット単位で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 ~ 6 (2) 	高さ	バーコードの高さをドット単位で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 ~ 255 (162) ただし、下記のバーコードは[幅]の選択によって設定可能な範囲が異なります。※13 <ul style="list-style-type: none"> ➤ GS1 Databar Omni-directional ➤ GS1 Databar Truncated ➤ GS1 Databar Limited ➤ GS1 Databar Expanded 	
幅	バーコードの細エレメント幅またはモジュール幅をドット単位で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 ~ 6 (2) 				
高さ	バーコードの高さをドット単位で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 ~ 255 (162) ただし、下記のバーコードは[幅]の選択によって設定可能な範囲が異なります。※13 <ul style="list-style-type: none"> ➤ GS1 Databar Omni-directional ➤ GS1 Databar Truncated ➤ GS1 Databar Limited ➤ GS1 Databar Expanded 				
HRI(H)	バーコードに付加するHRI文字の位置及びフォントを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ なし ・ バーコードの上(フォントA) ・ バーコードの下(フォントA) ・ バーコードの上下(フォントA) ・ バーコードの上(フォントB) ・ バーコードの下(フォントB) ・ バーコードの上下(フォントB) 				

項目	説明 (“ ”: 初期値)
16進入力(E)	バーコードフォントデータまたは[テストデータ(D)]を16進数で入力する場合は、「有効」を選択します。※14 ・ 有効 ・ 無効
テスト印刷	テスト印刷について設定します。
位置(T)	バーコードの位置を選択します。 ・ 左寄せ ・ 中央 ・ 右寄せ
情報(N)	[設定]の情報を付加して印刷するか選択します。 ・ あり ・ なし
テストデータ(D)	テスト印刷するデータを入力します。 入力可能文字数は最大64文字で、半角入力のみ有効です。※14
実行(P)	入力された設定・[テストデータ(D)]でバーコードを印刷します。※15

※1: 選択する[フォント名(F)]により初期値として表示されるバーコードの体系が異なります。
[体系(S)]以下の項目の初期値は、選択された[フォント名(F)]に対応する初期値となります。

※2: [フォント名(F)]で「IPD Barcode1」を選択した場合の初期値です。

※3: [フォント名(F)]で「IPD Barcode2」を選択した場合の初期値です。

※4: [フォント名(F)]で「IPD Barcode3」を選択した場合の初期値です。

※5: [フォント名(F)]で「IPD Barcode4」を選択した場合の初期値です。

※6: [フォント名(F)]で「IPD Barcode5」を選択した場合の初期値です。

※7: [フォント名(F)]で「IPD Barcode6」を選択した場合の初期値です。

※8: [フォント名(F)]で「IPD Barcode7」を選択した場合の初期値です。

※9: [フォント名(F)]で「IPD Barcode8」を選択した場合の初期値です。

※10: [フォント名(F)]で「IPD Barcode9」を選択した場合の初期値です。

※11: [フォント名(F)]で「IPD Barcode10」を選択した場合の初期値です。

※12: [体系(S)]で「CODABAR」を選択した場合のみ画面に表示されます。

※13: バーコードのサイズの範囲は下記の通りです。

[高さ]の値を最小値未満に設定した場合は、値は自動的に最小値へ修正されます。

[体系(S)]	[幅]	[高さ]の値の範囲
GS1 Databar Omni-directional	2	66 ~ 255
	3	99 ~ 255
	4	132 ~ 255
	5	165 ~ 255
	6	198 ~ 255
GS1 Databar Truncated	2	26 ~ 255
	3	39 ~ 255
	4	52 ~ 255
	5	65 ~ 255
	6	78 ~ 255

[体系(S)]	[幅]	[高さ]の値の範囲
GS1 Databar Limited	2	20 ~ 255
	3	30 ~ 255
	4	40 ~ 255
	5	50 ~ 255
	6	60 ~ 255
GS1 Databar Expanded	2	68 ~ 255
	3	102 ~ 255
	4	136 ~ 255
	5	170 ~ 255
	6	204 ~ 255

※14: バーコードフォントデータの入力形式は下記の2種類です。

・CODE128の「CODE C」以外のバーコードフォントデータの場合

バーコードフォントデータ(012345)入力例

[16進入力(E)]が「無効」の場合 : 012345

[16進入力(E)]が「有効」の場合 : 303132333435

・CODE128の「CODE C」の場合

[16進入力(E)]が「無効」の場合 : 入力したい文字列に対応するコードを

「表 A-1 CODE128コードセット表」の[Code]から選択し、

「表 A-3 キャラクタコード表」から、そのコードに対応する文字列を入力してください。

[16進入力(E)]が「有効」の場合 : 「表 A-1 CODE128コードセット表」の[Code]を入力してください。

※15: [テストデータ(D)]が空白の場合、操作できません。

3.4.6 2次元バーコードフォントの設定

「設定リスト」の[2次元バーコードフォント設定]を選択し、下記の画面を表示してください。

図 3-11 [2次元バーコードフォント設定]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
設定	2次元バーコードフォントについて設定します。
フォント名(F) ^{※1}	フォント名を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ IPD 2D-Barcode1 ・ IPD 2D-Barcode2 ・ IPD 2D-Barcode3 ・ IPD 2D-Barcode4 ・ IPD 2D-Barcode5
体系(S)	2次元バーコードの体系を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ QR Code Model-2^{※2} ・ PDF417^{※3} ・ Data Matrix^{※4} ・ Maxi Code^{※5} ・ GS1 Databar Stacked^{※6} ・ GS1 Databar Stacked Omni-directional ・ GS1 Databar Expanded Stacked
サイズ(I) ^{※7}	1モジュールのサイズをドット単位で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 ～ 16^{※8} (6) ・ 2 ～ 8^{※9} (3)

項目	説明 (“ ”: 初期値)
段高さ(H) ^{※10}	段高さをドット単位で設定します。 ・ 2 ～ 127 ^{※11} (10) ・ 33 ～ 255 ^{※12}
エラー訂正レベル(C) ^{※13}	QR Codeのエラー訂正レベルを選択します。 ^{※14} ・ L ・ M ・ Q ・ H PDF417のエラー訂正レベルを選択します。 ・ 0 ～ 8 ^{※15} (0)
モード(M) ^{※16}	Maxi Codeのモードを選択します。 ・ Mode 2 ・ Mode 3 ・ Mode 4 ・ Mode 5
モジュール数(O) ^{※17}	モジュール数を選択します。 ・ Auto ・ 10x10 ・ 12x12 ・ 14x14 ・ 16x16 ・ 18x18 ・ 20x20 ・ 22x22 ・ 24x24 ・ 26x26 ・ 32x32 ・ 36x36 ・ 40x40 ・ 44x44 ・ 48x48 ・ 52x52 ・ 64x64 ・ 72x72 ・ 80x80 ・ 88x88 ・ 96x96 ・ 104x104 ・ 120x120 ・ 132x132 ・ 144x144 ・ 8x18 ・ 8x32 ・ 12x26 ・ 12x36 ・ 16x36 ・ 16x48

項目	説明 (“ ”: 初期値)
セグメント数(G) ^{※18}	セグメント数を設定します。 ・ 2 ~ 20
16進入力(E)	バーコードフォントデータまたは[テストデータ(D)]を16進数で入力する場合は、「有効」を選択します。 ^{※19} ・ 有効 ・ 無効
テスト印刷	テスト印刷について設定します。
位置(T)	2次元バーコードの位置を選択します。 ・ 左寄せ ・ 中央 ・ 右寄せ
情報(N)	[設定]の情報を付加して印刷するか選択します。 ・ あり ・ なし
テストデータ(D)	テスト印刷するデータを入力します。 半角文字及び全角文字のいずれも64文字まで入力可能です。 ^{※19}
実行(P)	入力された設定・[テストデータ(D)]で2次元バーコードを印刷します。 ^{※20}

※1: 選択する[フォント名(F)]により初期値として表示されるバーコードの体系が異なります。
[体系(S)]以下の項目の初期値は、選択された[フォント名(F)]に対応する初期値となります。

※2: [フォント名(F)]で「IPD 2D-Barcode1」を選択した場合の初期値です。

※3: [フォント名(F)]で「IPD 2D-Barcode2」を選択した場合の初期値です。

※4: [フォント名(F)]で「IPD 2D-Barcode3」を選択した場合の初期値です。

※5: [フォント名(F)]で「IPD 2D-Barcode4」を選択した場合の初期値です。

※6: [フォント名(F)]で「IPD 2D-Barcode5」を選択した場合の初期値です。

※7: [体系(S)]で下記を選択した場合のみ画面に表示されます。

- ・ QR Code Model-2
- ・ PDF417
- ・ Data Matrix
- ・ GS1 Databar Stacked
- ・ GS1 Databar Stacked Omni-directional
- ・ GS1 Databar Expanded Stacked

※8: [体系(S)]で下記を選択した場合の範囲です。

- ・ QR Code Model-2
- ・ Data Matrix
- ・ GS1 Databar Stacked
- ・ GS1 Databar Stacked Omni-directional
- ・ GS1 Databar Expanded Stacked

※9: [体系(S)]で「PDF417」を選択した場合の範囲です。

※10: [体系(S)]で下記を選択した場合のみ画面に表示されます。

- ・ PDF417
- ・ GS1 Databar Stacked Omni-directional

※11: [体系(S)]で「PDF417」を選択した場合の範囲です。

※12: [体系(S)]で「GS1 Databar Stacked Omni-directional」を選択した場合の範囲です。

※13: [体系(S)]で下記を選択した場合のみ画面に表示されます。

- ・ QR Code Model-2
- ・ PDF417

※14: [体系(S)]で「QR Code Model-2」を選択した場合の範囲です。

※15: [体系(S)]で「PDF417」を選択した場合の範囲です。

※16: [体系(S)]でMaxi Codeを選択した場合のみ画面に表示されます。

※17: [体系(S)]で「Data Matrix」を選択した場合のみ画面に表示されます。

※18: [体系(S)]で「GS1 Databar Expanded Stacked」を選択した場合のみ画面に表示されます。

※19: バーコードフォントデータの入力形式は下記の通りです。

バーコードフォントデータ(012345)入力例

[16進入力(E)]が「無効」の場合 : 012345

[16進入力(E)]が「有効」の場合 : 303132333435

※20: [テストデータ(D)]が空白の場合、操作できません。

3.4.7 コントロールAフォントの設定

「設定リスト」の[コントロールAフォント設定]を選択し、下記の画面を表示してください。

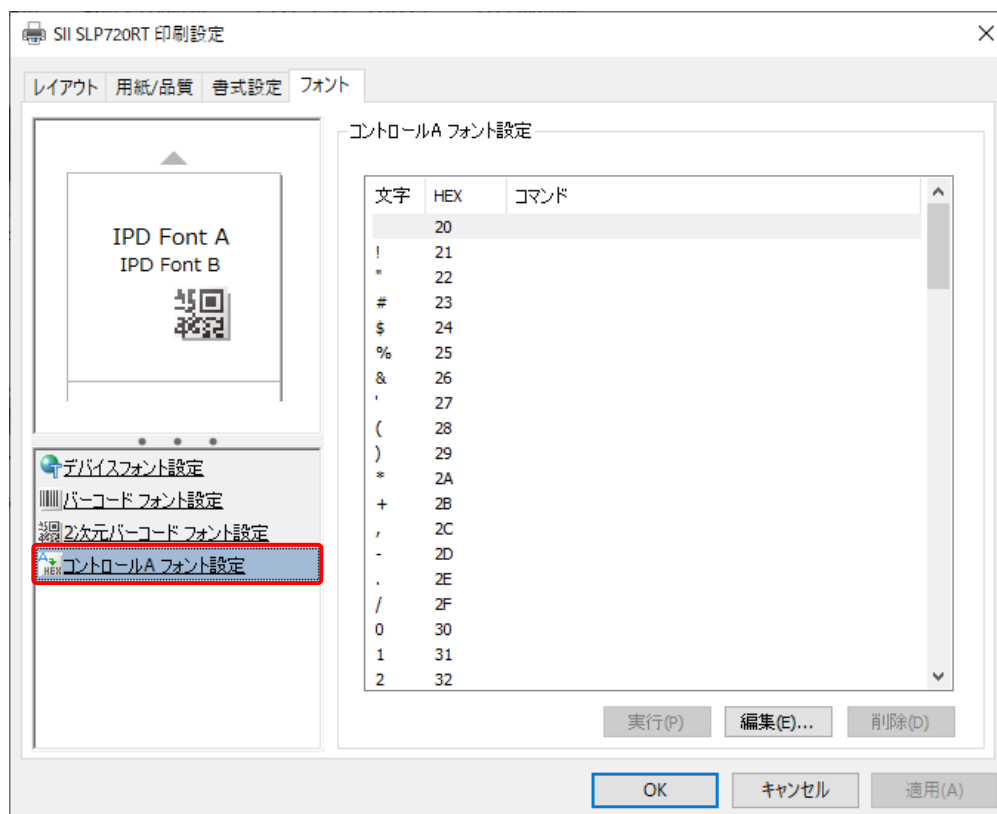


図 3-12 [コントロールAフォント設定]画面

項目	説明
文字	プリンターコマンドを割り当てる文字を表示します。
HEX	[文字]を16進数で表示します。
コマンド	設定されているプリンターコマンドを表示します。 プリンターコマンドの入力は[編集(E)...]ボタンをクリックして表示されるバイナリエディターを使用します。
実行(P)	選択中のリストに入力されているプリンターコマンドを実行します。※1
編集(E)...	バイナリエディターでプリンターコマンドを入力します。※2 入力したプリンターコマンドは[コマンド]列に表示されます。 指定可能バイト数は最大256バイトです。 バイナリエディターについては「3.3.8 バイナリエディターの使用方法」を参照してください。
削除(D)	選択中のリストの[コマンド]欄をクリアします。※1※2

※1: 選択中のリストの[コマンド]が空白の場合は、操作できません。

※2: アプリケーションからの印刷時に起動された[印刷設定]画面からは操作できません。操作が必要な場合は、プリンターフォルダーから[印刷設定]画面を起動してください。

3.5 詳細設定

3.5.1 詳細オプションの設定

[レイアウト]タブ及び[用紙/品質]タブの、右下の[詳細設定(V)...]ボタンをクリックし、下記の画面を表示してください。

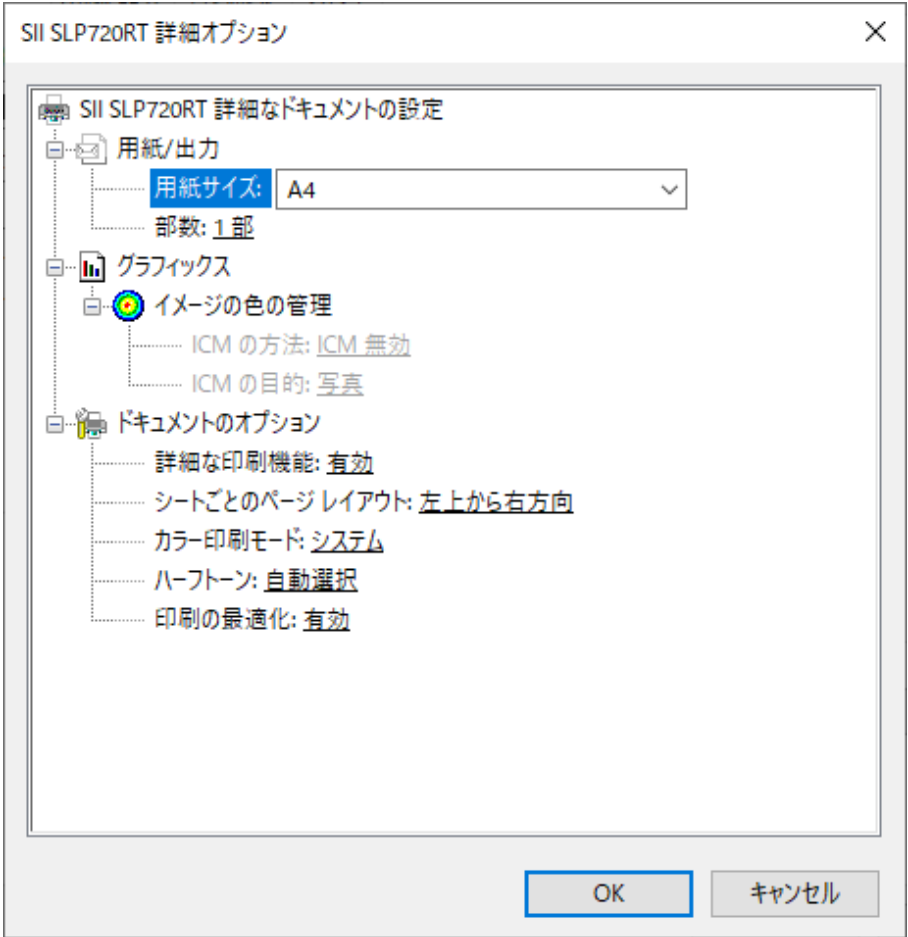


図 3-13 [詳細オプション]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
用紙/出力	用紙サイズ、部数を設定します。
用紙サイズ	使用する用紙サイズを選択します。※1 ・ 40 mm (36 x 3276mm)※2 ・ 40 mm (36 x 297mm) ※2 ・ 58 mm (54 x 3276mm) ・ 58 mm (54 x 297mm) ・ 58 mm (52 x 3276mm) ・ 58 mm (52 x 297mm) ・ A4※3 ・ Letter※4
部数	印刷する部数を入力します。(単位: 部) ・ 1 ~ 9999

項目	説明 (“ ”:初期値)
グラフィックス	ICMの方法、目的を設定します。※5
ICMの方法	ICMの方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ICM無効 ・ ホストシステムによるICM処理 ・ プリンターによるICM処理
ICMの目的	ICMの目的を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ グラフィック ・ 写真 ・ 校正 ・ 一致
ドキュメントのオプション	ドキュメントのオプションを設定します。
詳細な印刷機能	詳細な印刷機能を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 有効 ・ 無効
シートごとのページレイアウト	シートごとのページレイアウトを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 左上から右方向 ・ 左上から下方向 ・ 右上から左方向 ・ 右上から下方向
カラー印刷モード	カラー印刷モードを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ システム ・ ドライバー この選択は「3.2 用紙/品質」の[色]の設定と連動しています。※6
ハーフトーン	ハーフトーンを選択します。※7 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自動選択 ・ スーパーセル ・ ディザー 2x2 ・ ディザー 4x4 ・ ディザー 6x6 ・ ディザー 8x8
印刷の最適化	印刷の最適化を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 有効 ・ 無効

※1: ユーザーが新規に登録した用紙を設定することもできます。用紙に登録する方法については、「5.3 カスタム用紙の登録方法」を参照してください。

※2: ライナレスラベル紙のみサポートします。

※3: 日本語環境での初期値です。

※4: 日本語環境以外での初期値です。

※5: 「3.2 用紙/品質」の[色]で「カラー(O)」を選択した場合のみ設定できます。

※6: 「システム」を選択した場合は[用紙/品質]タブの[色]が「白黒(C)」、「ドライバー」を選択した場合は[用紙/品質]タブの[色]が「カラー(O)」に連動します。詳しくは「3.2 用紙/品質」を参照してください。

※7: 「3.2 用紙/品質」の[色]で「カラー(O)」を選択した場合は、「自動選択」以外は選択できません。

4章 プリンターのプロパティ

本章ではプリンターのプロパティについて説明します。

プリンターのプロパティは[プリンターのプロパティ]画面の各種タブから、それぞれ確認及び変更ができます。

[プリンターのプロパティ]画面は下記の手順で表示できます。

1. [プリンターフォルダー]内に表示されているプリンターアイコンを右クリックしてサブメニューを表示してください。
2. 表示されたサブメニューから[プリンターのプロパティ(P)]を選択してください。

[プリンターのプロパティ]画面で表示されるタブには下記の種類があります。

- ・ [全般]タブ : プリンタードライバ全般の管理、及びテストページを印刷します。
- ・ [共有]タブ : 共有プリンターを設定します。
- ・ [ポート]タブ : 出力ポートを設定します。
- ・ [ユーティリティ]タブ : プリンタードライバのバージョン情報と各種ユーティリティの起動ボタンを表示します。

注意

- ◆ [プリンターのプロパティ]画面において、上記に記載した4つのタブ以外に表示されているタブは、インストール時の設定のままで使用してください。

各画面の詳細は次項以降で説明します。

4.1 全般設定

プリンタードライバー全般の管理、及びテストページを印刷します。

[全般]タブを選択し、下記の画面を表示してください。

The screenshot shows the 'SII SLP720RTのプロパティ' (Properties of SII SLP720RT) dialog box. The '全般' (General) tab is selected. The dialog contains the following fields and controls:

- Printer Name:** A text box containing 'SII SLP720RT'.
- 場所(L):** A text box for the location.
- コメント(C):** A larger text box for comments.
- モデル(O):** A text box containing 'SII SLP720RT'.
- 機能 (Features):**
 - 色:** A dropdown menu set to 'はい' (Yes).
 - 両面:** A dropdown menu set to 'いいえ' (No).
 - ホチキス止め:** A dropdown menu set to 'いいえ' (No).
 - 速度:** A dropdown menu set to '不明' (Unknown).
 - 最高解像度:** A text box showing '203 dpi'.
- 利用可能な用紙 (Available Paper):** A list box showing 'A4'.
- Buttons:** '基本設定(E)...' (Basic Settings...), 'テストページの印刷(T)' (Print Test Page), 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and '適用(A)' (Apply).

図 4-1 [全般]画面

項目	説明
プリンター名	プリンター名を表示、変更します。※1
場所(L)	プリンターの設置場所を入力します。
コメント(C)	コメントを入力します。
モデル(O)	ドライバー名を表示します。
基本設定(E)...	[印刷設定]画面が開きます。
テストページの印刷(T)	Windowsのテスト印刷を実行します。※2

※1: プリンター名を変更した場合、[基本設定(E)...]で設定していた値は初期化される場合があります。

※2: 印刷内容が印字幅で切れてしまうため、小型プリンター向け用紙幅では正しく印刷できませんが、不具合ではありません。

4.2 共有設定

共有プリンターを設定します。
[共有]タブを選択し、下記の画面を表示してください。

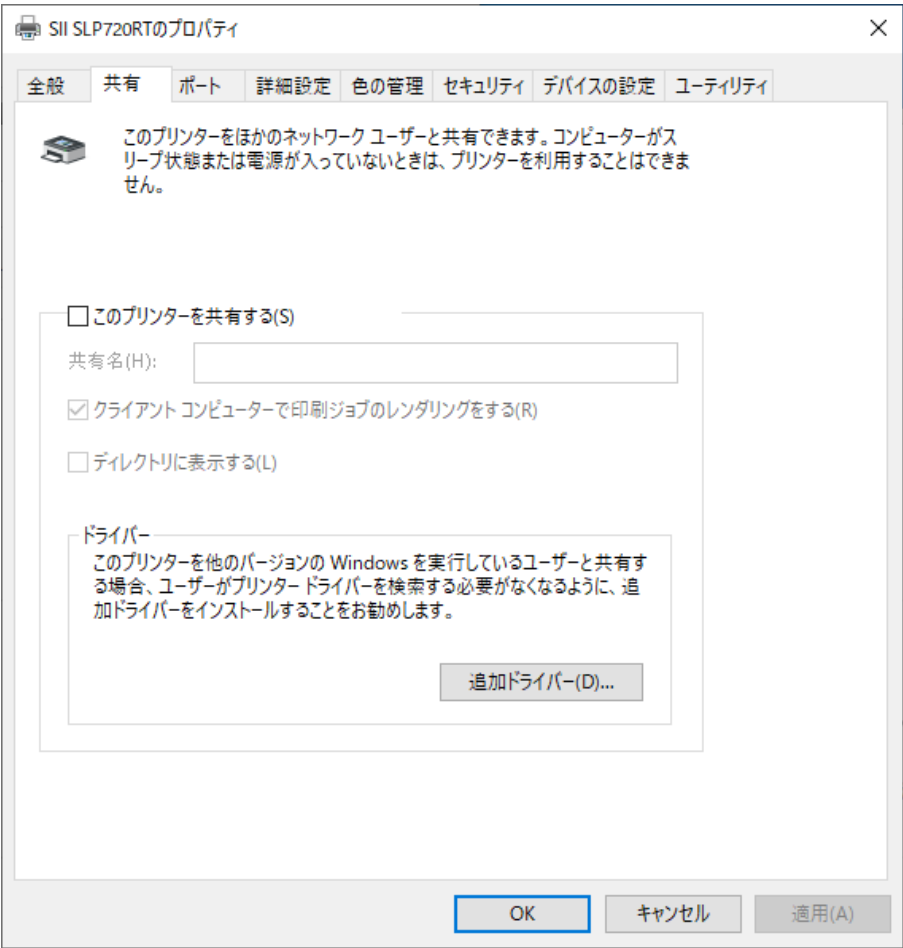


図 4-2 [共有]画面

項目	説明
このプリンターを共有する(S)	チェックボックスをオンにして、[共有名(H)]に任意の共有名を入力するとプリンタードライバーをネットワーク上の別のコンピューターから利用できます。
共有名(H)	プリンターの共有名を入力します。
追加ドライバー(D)...	この機能はサポートしていません。

注意

◆ 共有プリンターでの使用は、ネットワークの利用状況等により正常に動作しないことがあります。

4.3 ポート設定

出力ポートを設定します。

[ポート]タブを選択し、下記の画面を表示してください。

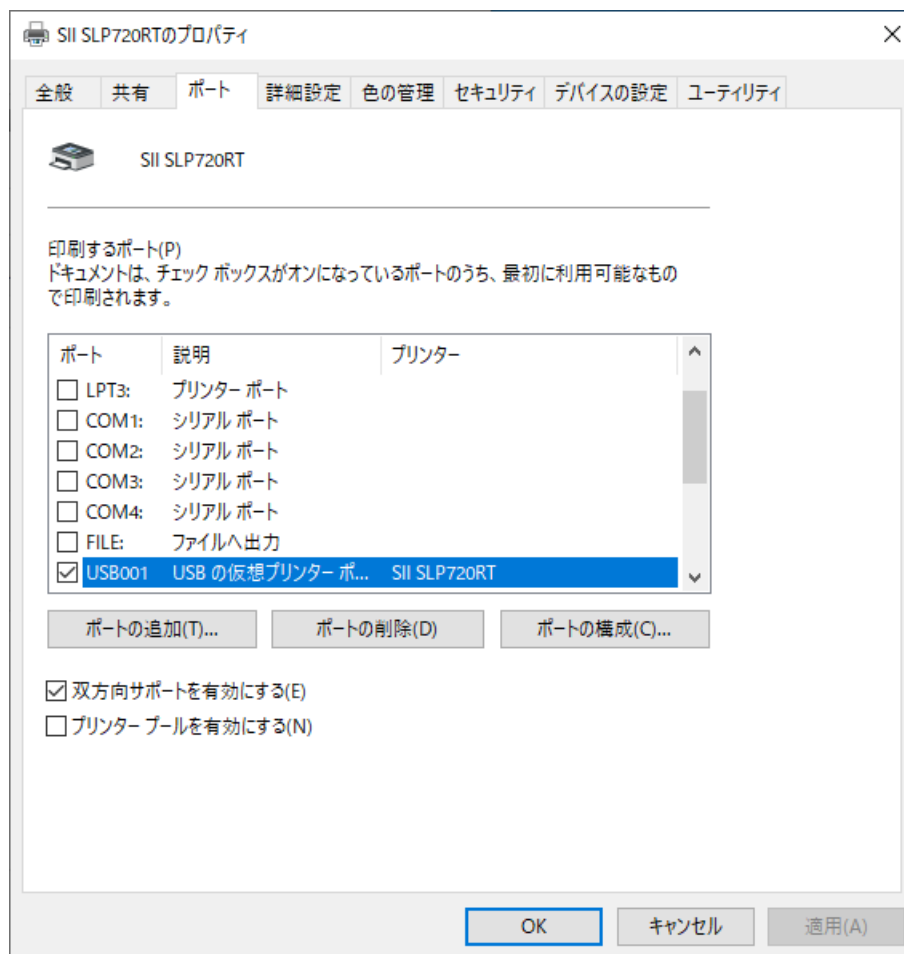


図 4-3 [ポート]画面

項目	説明
ポートの追加(T)...	ポートを追加できます。
ポートの削除(D)	ポートを削除できます。
ポートの構成(C)...	シリアル接続時の通信について設定します。※1
双方向サポートを有効にする(E)	プリンターから情報を取得するにはチェックボックスをオンにします。
プリンタープールを有効にする(N)	有効にすることで複数のポートのチェックボックスをオンにできるようになり、各ポートに接続しているプリンターで同じ内容を印刷できます。※2

※1: 設定にはコンピューターの管理者権限が必要です。

※2: SDKを利用する場合は、必ずチェックボックスをオフにしてください。

4.4 ユーティリティ

プリンタードライバーのバージョン情報と各種ユーティリティの起動ボタンを表示します。
[ユーティリティ]タブを選択し、下記の画面を表示してください。



図 4-4 [ユーティリティ]画面

項目	説明
バージョン情報	プリンタードライバーのファイル情報を表示します。
バージョン	プリンタードライバーのバージョンを表示します。
ファイルバージョン	プリンタードライバーを構成する各プログラムのファイルバージョンを表示します。
各種ユーティリティ	各ボタンをクリックすると、それぞれのユーティリティが起動します。
プリンター情報(I)	プリンターの各種情報を表示します。
メモリスイッチ(M)	メモリスイッチを設定します。
印刷ジョブ(J)	ジョブ単位の印刷データ出力を設定します。
テスト印字(T)	任意の内容でテスト印刷を実行します。
NVイメージ(N)	ロゴで使用するイメージデータの編集、登録、または登録されているNVイメージを管理します。

項目	説明
コードページ(C)	文字コードテーブルのユーザーページにおけるフォントデータの編集、登録、または登録されているコードページを管理します。
その他(O)	本ソフトウェアの設定内容をファイルにエクスポート、またはエクスポートしたファイルをインポートします。また、その他のプリンターの機能を実行します。
ログ(L)	ログ設定ユーティリティを起動します。ログ設定ユーティリティの利用方法は、「SII Log Setting Utility for Windows 取扱説明書」を参照してください。

各種ユーティリティの起動ボタンをクリックすると、ユーティリティ設定画面が表示されます。



図 4-5 [ユーティリティ設定]画面

各種ユーティリティの機能については、SLP720RT/SLP721RTシリーズ用「SII Printer Setting Utility for Windows 取扱説明書」を参照してください。

5章 用紙設定

本章では用紙設定について説明します。

本章で使用する用語について下記に記載します。

用語	内容
高さ(用紙高さ)	紙排出方向を縦とした場合の縦方向のサイズ
幅(用紙幅)	紙排出方向を縦とした場合の横方向のサイズ
出力用紙サイズ	実際に出力される用紙(ロール紙)サイズ
用紙サイズ	プリンタードライバー上で指定する、印刷可能領域のサイズ
標準用紙	インストール時にあらかじめ登録される用紙サイズ
カスタム用紙	ユーザーが新規に登録可能な用紙サイズ

注意

- ◆ カスタム用紙を登録する際に指定するサイズは、出力用紙のサイズではなく用紙サイズ（印刷可能領域のサイズ）を指定します。
- ◆ A4、Letter以外の標準用紙の名称は「出力用紙の幅」となっていますが、用紙サイズと一致するものではありません。

下記に印刷イメージ図を示します。

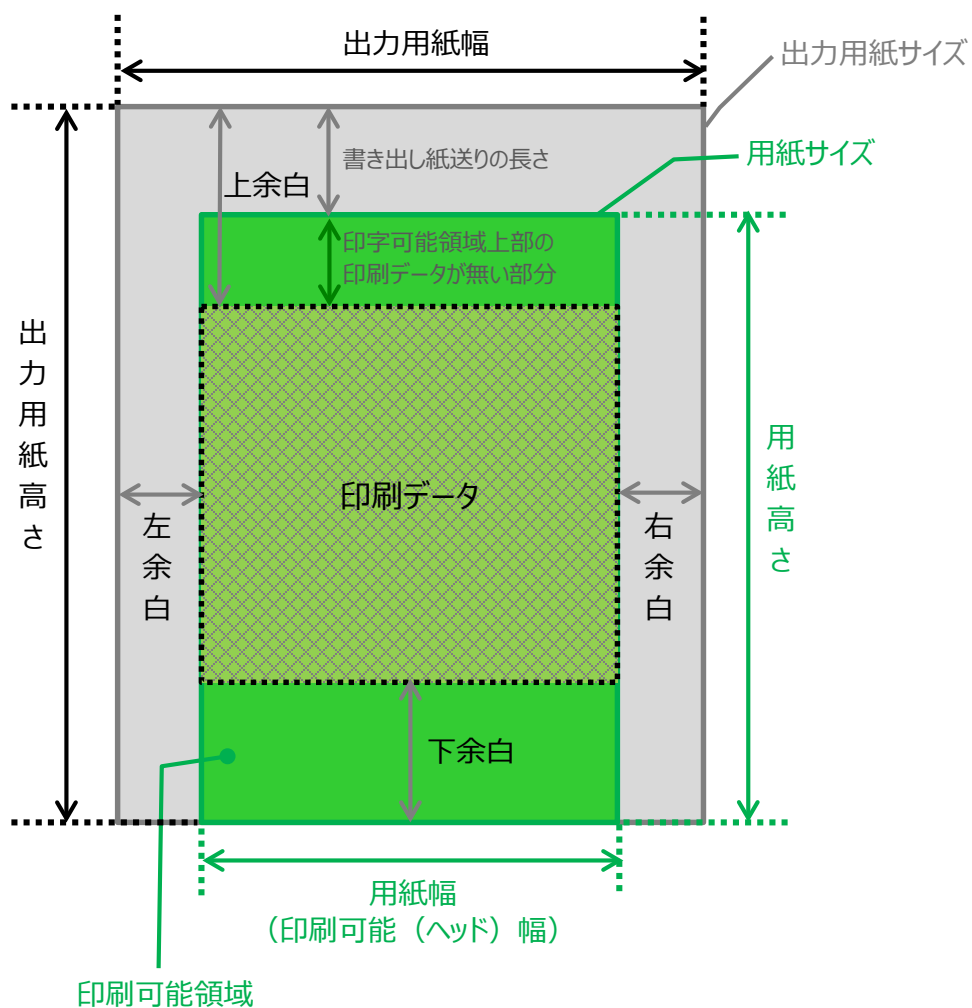


図 5-1 印刷イメージ図

上記イメージは印刷イメージであり、印字終了位置は「3.3.6 用紙カット/マーク紙設定」の[カット位置まで紙送り(F)]の設定により異なります。

5.1 用紙サイズ

使用する出力用紙の幅で使用できる用紙サイズの組合せは下記の通りです。

ドライバー名	出力用紙幅	用紙種類	用紙名称	用紙サイズ/範囲	
				幅	高さ
SII SLP720RT	40 mm	標準用紙	40 mm (36 x 3276 mm)	36 mm	3276 mm
			40 mm (36 x 297 mm)	36 mm	297 mm
		カスタム用紙	–	25.6 mm ~ 54 mm	25 mm ~ 3276 mm
	58 mm	標準用紙	58 mm (54 x 3276 mm)	54 mm	3276 mm
			58 mm (54 x 297 mm)	54 mm	297 mm
			58 mm (52 x 3276 mm)	52 mm	3276 mm
			58 mm (52 x 297 mm)	52 mm	297 mm
			A4	210 mm	297 mm
			Letter	215.9 mm	279.4 mm
		カスタム用紙	–	25.6 mm ~ 54 mm	25 mm ~ 3276 mm

用紙サイズは下記を指定してください。

- 用紙幅 = 出力用紙幅 - 左余白 - 右余白
- 用紙高さ = 出力用紙高さ - 書き出し紙送りの長さ

余白、及び書き出し紙送りの長さについては、「5.2 余白」を参照してください。

5.2 余白

下記に余白サイズについて説明します。

以降の説明では、「3.1.1 レイアウトの設定」の[印刷の向き(O)]が「縦」、「3.3.5 基本設定」の[方向(R)]が「順」となっていることを前提として説明します。

用紙幅方向の余白は下記の通りです。

左余白

下記の左余白が発生します。

出力用紙幅	用紙幅	ドライバー名	左余白
40 mm	36 mm	SII SLP720RT	2 mm
58 mm	54 mm		2 mm
	52 mm		3 mm

右余白

下記の右余白が発生します。

右余白 = 出力用紙幅 - 用紙幅 - 左余白

上余白

上余白とは、下記の書き出し紙送りの長さと、印刷可能領域上部の印刷データが無い部分が含まれます。該当箇所については、図 5-1を参照してください。

用紙カット	カット位置まで紙送り	書き出し紙送りの長さ
フルカット / パーシャルカット	する	4.625 mm ^{※1} / 13.125 mm ^{※2}
	しない	0.625 mm ^{※3}
カットしない	－	0.625 mm

※1: フルカット、かつ上余白最小を設定した場合、自動で上余白が最小になるように逆方向への紙送りをします。
詳細は、「3.3.5 基本設定」を参照してください。

※2: ※1の条件に該当しない場合は、本値になります。

※3: 印刷下部が切れる場合があります。

下余白

下余白とは、印刷可能領域下部の印刷データが無い部分です。

「3.3.5 基本設定」の[余白(M)]の選択による動作は下記の通りです。

- 下余白最小 : 選択された用紙高さに関係なくイメージの終端まで紙送りをします。
- 最大余白 : 選択された用紙高さまで紙送りをします。
ただし、用紙の紙送りの長さは、印刷するデータを含む用紙高さを上限とします。

注意

- ◆ 「3.3.6 用紙カット/マーク紙設定」の[カット位置まで紙送り(F)]を「しない」に設定して用紙をカットした場合、書き出し紙送りの長さ分、印刷可能領域の内側で印刷が終了します。
- ◆ 用紙サイズの内容に対し用紙高さについてはプリンターの機構上、若干の誤差が生じる場合があります。
- ◆ ロゴの印刷、紙送り、カット位置まで紙送り、カスタムコマンドによる印刷は、送信するデータの内容により、指定した用紙サイズより長く印刷、または紙送りされる場合があります。

参考

- 紙送りを行う場合、紙送りの長さに若干の誤差が生じる場合があります。
- ユーザーが新規に用紙を登録する方法については、「5.3 カスタム用紙の登録方法」を参照してください。
- マーク紙を利用する場合は、プリンター側の最大余白サイズは「5.2 余白」の上余白、及び下余白と異なります。

5.3 カスタム用紙の登録方法

下記にカスタム用紙の登録手順の一例を示します。

1. [プリント サーバーのプロパティ]画面の[用紙]タブを選択してください。
2. [新しい用紙を作成する(C)]のチェックボックスをオンにしてください。
3. [用紙名(N)]に用紙名を入力してください。
4. [単位]の「メートル法(M)」を選択してください。
5. [用紙サイズ]の[幅(W)]にカスタム用紙の用紙幅を入力してください。
6. [用紙サイズ]の[高さ(H)]にカスタム用紙の用紙高さを入力してください。
7. [用紙の保存(S)]ボタンをクリックしてください。

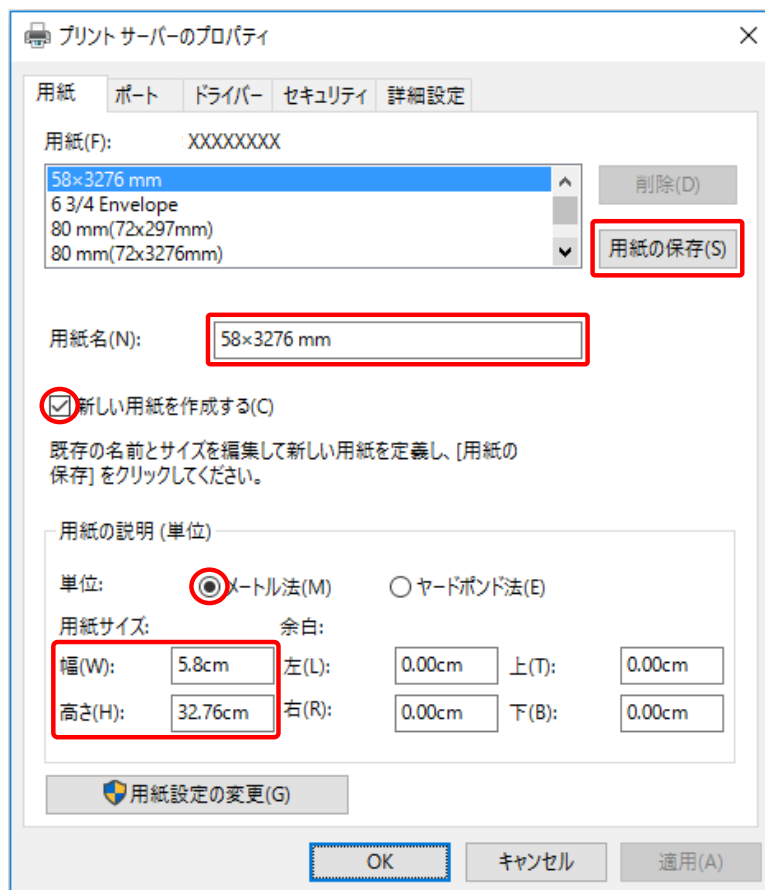


図 5-2 [プリント サーバーのプロパティ]画面

注意

- ◆ カスタム用紙の登録にはコンピューターの管理者権限が必要です。
- ◆ カスタム用紙は「5.1 用紙サイズ」の[用紙サイズ/範囲]を考慮して登録してください。[用紙]上に表示されている用紙の中で「5.1 用紙サイズ」の[用紙サイズ/範囲]に記載された内容に該当する用紙のみプリンタードライバーで利用できます。

6章 フォント

本章ではフォント印刷機能について説明します。

プリンタードライバーで扱うことのできるフォントの種類には下記の種類があります。

- ・ TrueTypeフォント : Windowsに搭載されているフォントです。
- ・ デバイスフォント : プリンターに搭載されているフォントです。
- ・ バーコードフォント : プリンターでバーコードを印刷するための特殊フォントです。
- ・ 2次元バーコードフォント : プリンターで2次元バーコードを印刷するための特殊フォントです。
- ・ コントロールフォント : あらかじめ登録されているプリンターコマンドを使用するための特殊フォントです。
- ・ コントロールAフォント : ユーザーが登録したプリンターコマンドを使用するための特殊フォントです。

参考

- TrueTypeフォント
TrueTypeフォントでは、斜体など文字修飾やフォントサイズを自由に変更できます。また、ほぼ画面イメージ通りの印刷が可能です。
TrueTypeフォントの印刷はイメージデータとして印刷されます。

注意

- ◆ IPDフォントを使用する場合、以下の設定にしてください。
 - ・ 「3.1.1 レイアウトの設定」の[印刷の向き(O)] : 「縦」
 - ・ 「3.3.5 基本設定」の[方向(R)] : 「順」
 - ・ 「3.3.5 基本設定」の[縮小(E)] : 「縮小しない」
- ◆ 特殊フォントは、プレビューや編集画面ではイメージとして表示されません。
- ◆ 特殊フォントを使用すると、指定した用紙サイズより長く印刷されることがあります。
- ◆ 1行の中にデバイスフォントとバーコードフォント、2次元バーコードフォントは並べて印刷できません。
- ◆ 1行の中にTrueTypeフォントとIPDフォントは並べて印刷できません。
- ◆ 1行の中にイメージとIPDフォントは並べて印刷できません。

6.1 デバイスフォント

デバイスフォントとは、プリンターに内蔵されているフォントセットです。TrueTypeフォントよりも高速で印刷できます。

漢字コード体系は、使用している言語環境によって異なります。

Windows OS	システムロケール	漢字コード体系
日本語	日本語(日本)	シフトJISコード
	日本語(日本)以外	JISコード
日本語以外	日本語(日本)	シフトJISコード
	日本語(日本)以外	JISコード

文字列のエンコードは、[印刷設定ダイアログ] - [フォント]タブの[デバイスフォント設定]の選択によって異なります。

[デバイスフォント設定]の「文字コードテーブル(C)」が[既定値]の場合は、文字列のエンコードは、システムで現在有効になっているANSIコードページで行われます。

[デバイスフォント設定]の「文字コードテーブル(C)」が[既定値]以外の場合は、文字列のエンコードは、[デバイスフォント設定]で選択しているコードページで行われます。コードページの詳細は「3.4.4 デバイスフォントの設定」を参照してください。

注意

- ◆ 文字に斜体を指定しても反映されません。
- ◆ 文字にアンダーラインを指定した場合は、デバイスフォントのアンダーラインで印刷されるため、アンダーラインの位置や線種は固定です。

6.1.1 デバイスフォントの種類の選択

デバイスフォントの種類は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット	説明	
IPD Font A※ ¹	8.5ポイント	欧文	24x12	標準フォント
	17ポイント		24x12	縦倍角フォント
IPD Font A Wide※ ¹	8.5ポイント		24x12	横倍角フォント
	17ポイント		24x12	4倍角フォント
IPD Font B※ ¹	5.5ポイント		16x8	標準フォント
	11.5ポイント		16x8	縦倍角フォント
IPD Font B Wide※ ¹	5.5ポイント		16x8	横倍角フォント
	11.5ポイント		16x8	4倍角フォント

フォント名	フォントサイズ	文字セット	説明	
IPD Font A Japanese※2	8.5ポイント	日本語	24x12	標準フォント
	17ポイント		24x12	縦倍角フォント
IPD Font A Wide Japanese※2	8.5ポイント		24x12	横倍角フォント
	17ポイント		24x12	4倍角フォント
IPD Font B Japanese※2	5.5ポイント		16x8	標準フォント
	11.5ポイント		16x8	縦倍角フォント
IPD Font B Wide Japanese※2	5.5ポイント		16x8	横倍角フォント
	11.5ポイント		16x8	4倍角フォント

※1: 日本語環境では表示されません。

※2: 日本語環境以外では表示されません。

6.1.2 デバイスフォントの印刷

デバイスフォントはプログラミングにより印刷ができます。

6.2 バーコードフォント

バーコードフォントとは、アプリケーション側でバーコードを生成しなくても、このフォントを指定することでバーコードを印刷できる特殊なフォントです。

バーコードフォントは、バーコードの種類や大きさを[印刷設定]で登録して使用します。プリンタードライバは10種類(IPD Barcode1 ～ 10)の設定を登録できます。登録方法は「3.4.5 バーコードフォントの設定」を参照してください。

注意

- ◆ バーコード設定やデータの指定により用紙幅(印字可能(ヘッド)幅)以上のバーコードになってしまう場合は、正しく印刷されません。

6.2.1 バーコードフォントの種類の選択

バーコードのフォント名は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット
IPD Barcode1	8.5ポイント	欧文
IPD Barcode2		
IPD Barcode3		
IPD Barcode4		
IPD Barcode5		
IPD Barcode6		
IPD Barcode7		
IPD Barcode8		
IPD Barcode9		
IPD Barcode10		

6.2.2 バーコードフォントの印刷

バーコードフォントはプログラミングにより印刷ができます。

バーコードフォントデータの入力条件は下記の通りです。使用可能なバーコードフォントデータをASCII形式で入力してください。

種別	バーコードフォントデータ数	使用可能なバーコードフォントデータ	備考
UPC-A	11 ～ 12文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	–
UPC-E	11 ～ 12文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	–
JAN13 (EAN13)	12 ～ 13文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	–
JAN8 (EAN8)	7 ～ 8文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	–
Code39	1文字以上	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	スタートコード及びストップコード('*')は自動で付加されます。
		'A' ～ 'Z' (0x41 ～ 0x54)	
		' ' (0x20)	
		'\$' (0x24)	
		'%' (0x25)	
		'+' (0x2B)	
		'_' (0x2D)	
		'.' (0x2E)	
		'/' (0x2F)	
ITF	2文字以上 (ただし偶数個)	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	偶数個のバーコードフォントデータを指定してください。奇数個のバーコードフォントデータを指定した場合、正常に印刷されない場合があります。
CODABAR	1文字以上	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	スタートコード及びストップコード('A' ～ 'D')の設定は「3.4.5 バーコードフォントの設定」を参照してください。
		'\$' (0x24)	
		'+' (0x2B)	
		'_' (0x2D)	
		'.' (0x2E)	
		'/' (0x2F)	
		':' (0x3A)	
CODE128	2文字以上	(0x00 ～ 0x7F) ※1 ※2 ※3	–
CODE93	1文字以上	(0x00 ～ 0x7F) ※2 ※3	–
JAN13 (EAN13) add-on 2	12 ～ 13 + 2文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	–
JAN13 (EAN13) add-on 5	12 ～ 13 + 5文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	–

種別	バーコードフォントデータ数	使用可能なバーコードフォントデータ	備考
GS1 Databar Omni-directional	13文字	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	チェックデジットは自動計算されます。
GS1 Databar Truncated	13文字	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	チェックデジットは自動計算されます。
GS1 Databar Limited	13文字	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	チェックデジットは自動計算されます。
GS1 Databar Expanded ^{※5}	2文字以上	' ' ~ ' ' (0x20 ~ 0x22) ^{※3}	-
		'%' ~ '?' (0x25 ~ 0x3F)	
		'A' ~ 'Z' (0x41 ~ 0x5A)	
		' ' (0x5F)	
		'a' ~ 'z' (0x61 ~ 0x7A)	
		'{' (0x7B) ^{※4}	

※1: CODEの選択によって使用できるバーコードフォントデータが異なります。

・CODE A: 0x00 ~ 0x5F

・CODE B: 0x20 ~ 0x7F

・CODE C: 00 ~ 99(0x00 ~ 0x63) の2桁の数字

「表 A-2 CODE128特殊コード表」を参照し、CODE、FNC、SHIFTの選択を行ってください。

対応するバーコードフォントデータは「表 A-1 CODE128コードセット表」を参照してください。

CODE128のバーコードフォントデータの入力形式は下記の通りです。

・「CODE A」「CODE B」の場合

バーコードフォントデータ(012345)入力例

[16進入力(E)]が「無効」の場合 : 012345

[16進入力(E)]が「有効」の場合 : 303132333435

・「CODE C」の場合

[16進入力(E)]が「無効」の場合 : 入力したい文字列に対応するコードを

「表 A-1 CODE128コードセット表」の[Code]から選択し、

「表 A-3 キャラクタコード表」から、そのコードに対応する文字列を入力してください。

[16進入力(E)]が「有効」の場合 : 「表 A-1 CODE128コードセット表」の[Code]を入力してください。

※2: 0x00~0x1F、0x7Fを使用する場合、「3.4.5 バーコードフォントの設定」の[16進入力(E)]を有効にすることでコード入力が可能です。

※3: 0x20は、「3.4.5 バーコードフォントの設定」の[16進入力(E)]が「有効」の場合のみ使用できます。

※4: '{'は、FNCを指定する場合にのみ使用します。

FNC1を指定する場合、'{', '1' (0x7B, 0x31)を入力してください。

※5: 有効な入力データの詳細は、「技術説明書」を参照してください。

6.3 2次元バーコードフォント

2次元バーコードフォントとは、アプリケーション側で2次元バーコードイメージを生成しなくても、このフォントを指定することで2次元バーコードを印刷できる特殊なフォントです。

2次元バーコードフォントは、2次元バーコードの種類や大きさを[印刷設定]で登録して使用します。プリンタードライバーでは5種類(IPD 2D-Barcode1 ～ 5)の設定を登録できます。登録方法は「3.4.6 2次元バーコードフォントの設定」を参照してください。

文字列のエンコードは、システムで現在有効になっているANSIコードページで行われます。

注意

- ◆ 2次元バーコード設定やデータの指定により用紙幅(印字可能(ヘッド)幅)以上の2次元バーコードになってしまう場合は、正しく印刷されません。

6.3.1 2次元バーコードフォントの種類の選択

2次元バーコードのフォント名は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット
IPD 2D-Barcode1	8.5ポイント	欧文/日本語 ^{※1}
IPD 2D-Barcode2		
IPD 2D-Barcode3		
IPD 2D-Barcode4		
IPD 2D-Barcode5		

※1: 日本語以外の環境では文字セット(フォントスクリプト)を「欧文」にしてください。
日本語環境では文字セット(フォントスクリプト)を「日本語」にしてください。

6.3.2 2次元バーコードフォントの印刷

2次元バーコードフォントはプログラミングにより印刷ができます。

有効な入力データの詳細は、「技術説明書」を参照してください。

6.4 コントロールフォント

コントロールフォントとは、固定の文字に割り当てられたプリンターコマンドを文書内から実行する特殊なフォントです。

6.4.1 コントロールフォントの種類の選択

コントロールフォントの種類は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット
IPD Control	8.5ポイント	欧文

6.4.2 コントロールフォントの使用

コントロールフォントはプログラミングにより使用できます。

コントロールフォントとして割り当てられた文字と動作は下記の通りです。

割当文字	動作	割当文字	動作
5	HT	u	文字の90度右回転の指定
6	LF	v	文字の90度右回転の解除
7	CR	w	位置揃え 左
a	ドロワ2オープン50 ms ^{※1}	x	位置揃え 中央
b	ドロワ2オープン100 ms ^{※1}	y	位置揃え 右
c	ドロワ2オープン150 ms ^{※1}	A	ドロワ1オープン50 ms ^{※1}
d	ドロワ2オープン200 ms ^{※1}	B	ドロワ1オープン100 ms ^{※1}
e	ドロワ2オープン250 ms ^{※1}	C	ドロワ1オープン150 ms ^{※1}
f	紙送り無し+フルカット	D	ドロワ1オープン200 ms ^{※1}
g	紙送り無し+パーシャルカット	E	ドロワ1オープン250 ms ^{※1}
h	NVイメージ"00"(0x30,0x30) 印刷	G	NVイメージ"00"(0x30,0x30) Normal印刷
i	NVイメージ"01"(0x30,0x31) 印刷	H	NVイメージ"01"(0x30,0x31) Normal印刷
j	NVイメージ"02"(0x30,0x32) 印刷	I	NVイメージ"02"(0x30,0x32) Normal印刷
k	NVイメージ"03"(0x30,0x33) 印刷	J	NVイメージ"03"(0x30,0x33) Normal印刷
l	NVイメージ"04"(0x30,0x34) 印刷	K	NVイメージ"04"(0x30,0x34) Normal印刷
m	倒立印字の指定	P	紙送り有り+パーシャルカット
n	倒立印字の解除	Q	紙送り有り+フルカット
o	白黒反転印字の指定	[NVイメージ"00"(0x30,0x30) 4倍印刷
p	白黒反転印字の解除]	NVイメージ"01"(0x30,0x31) 4倍印刷
q	アンダーラインの指定	^	NVイメージ"02"(0x30,0x32) 4倍印刷
r	アンダーラインの解除	_	NVイメージ"03"(0x30,0x33) 4倍印刷
s	強調印字の指定	`	NVイメージ"04"(0x30,0x34) 4倍印刷
t	強調印字の解除	-	-

※1: SLP721RTのみサポートします。

注意

- ◆ 90度回転時には、アンダーラインは付きません。

6.5 コントロールAフォント

コントロールAフォントとは、文字に事前に割り当てられたプリンターコマンドを文書内から実行する特殊なフォントです。プリンターコマンドについては、「技術説明書」を参照してください。

コントロールAフォントは、実行するプリンターコマンドを[印刷設定]で登録して使用します。プリンタードライバーでは0x20～0x7Fまでの文字に任意のプリンターコマンドを登録できます。登録方法は「3.4.7 コントロールAフォントの設定」を参照してください。

6.5.1 コントロールAフォントの種類の選択

コントロールAフォントの種類は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	フォントスクリプト
IPD ControlA	8.5ポイント	欧文

6.5.2 コントロールAフォントの使用

コントロールAフォントはプログラミングにより使用できます。

付録A コード表

表 A-1 CODE128コードセット表

Code	Data			Code	Data			Code	Data		
	CODE A	CODE B	CODE C		CODE A	CODE B	CODE C		CODE A	CODE B	CODE C
0x00	SP※1	SP※1	00	0x24	D	D	36	0x48	BS	h	72
0x01	!	!	01	0x25	E	E	37	0x49	HT	i	73
0x02	”	”	02	0x26	F	F	38	0x4A	NL*	j	74
0x03	#	#	03	0x27	G	G	39	0x4B	VT	k	75
0x04	\$	\$	04	0x28	H	H	40	0x4C	NP	l	76
0x05	%	%	05	0x29	I	I	41	0x4D	CR	m	77
0x06	&	&	06	0x2A	J	J	42	0x4E	SO	n	78
0x07	'	'	07	0x2B	K	K	43	0x4F	SI	o	79
0x08	((08	0x2C	L	L	44	0x50	DLE	p	80
0x09))	09	0x2D	M	M	45	0x51	DC1	q	81
0x0A	*	*	10	0x2E	N	N	46	0x52	DC2	r	82
0x0B	+	+	11	0x2F	O	O	47	0x53	DC3	s	83
0x0C	,	,	12	0x30	P	P	48	0x54	DC4	t	84
0x0D	-	-	13	0x31	Q	Q	49	0x55	NAK	u	85
0x0E	.	.	14	0x32	R	R	50	0x56	SYN	v	86
0x0F	/	/	15	0x33	S	S	51	0x57	ETB	w	87
0x10	0	0	16	0x34	T	T	52	0x58	CAN	x	88
0x11	1	1	17	0x35	U	U	53	0x59	EM	y	89
0x12	2	2	18	0x36	V	V	54	0x5A	SUB	z	90
0x13	3	3	19	0x37	W	W	55	0x5B	ESC	{	91
0x14	4	4	20	0x38	X	X	56	0x5C	FS		92
0x15	5	5	21	0x39	Y	Y	57	0x5D	GS	}	93
0x16	6	6	22	0x3A	Z	Z	58	0x5E	RS	~	94
0x17	7	7	23	0x3B	[[59	0x5F	US	DEL	95

Code	Data			Code	Data			Code	Data		
	CODE A	CODE B	CODE C		CODE A	CODE B	CODE C		CODE A	CODE B	CODE C
0x18	8	8	24	0x3C	¥	¥	60	0x60	FNC3	FNC3	96
0x19	9	9	25	0x3D]]	61	0x61	FNC2	FNC2	97
0x1A	:	:	26	0x3E	^	^	62	0x62	SHIFT	SHIFT	98
0x1B	;	;	27	0x3F	_	_	63	0x63	CODE C	CODE C	99
0x1C	<	<	28	0x40	NUL	`	64	0x64	CODE B	FNC4	CODE B
0x1D	=	=	29	0x41	SOH	a	65	0x65	FNC4	CODE A	CODE A
0x1E	>	>	30	0x42	STX	b	66	0x66	FNC1	FNC1	FNC1
0x1F	?	?	31	0x43	ETX	c	67				
0x20	@	@	32	0x44	EOT	d	68	0x67	START A		
0x21	A	A	33	0x45	ENQ	e	69	0x68	START B		
0x22	B	B	34	0x46	ACK	f	70	0x69	START C		
0x23	C	C	35	0x47	BEL	g	71				

※1: スペースを入力してください。

表 A-2 CODE128特殊コード表

Code		Data		
Code	ASCII	CODE A	CODE B	CODE C
0x7B53	{S	SHIFT	SHIFT	—
0x7B41	{A	START A	CODE A	CODE A
0x7B42	{B	CODE B	START B	CODE B
0x7B43	{C	CODE C	CODE C	START C
0x7B31	{1	FNC1	FNC1	FNC1
0x7B32	{2	FNC2	FNC2	—
0x7B33	{3	FNC3	FNC3	—
0x7B34	{4	FNC4	FNC4	—
0x7B7B	{{	—	{'	—

表 A-3 キャラクタコード表

Code	文字列	Code	文字列	Code	文字列	Code	文字列	Code	文字列	Code	文字列
0x20	SP※1	0x30	0	0x40	@	0x50	P	0x60	`	0x70	p
0x21	!	0x31	1	0x41	A	0x51	Q	0x61	a	0x71	q
0x22	”	0x32	2	0x42	B	0x52	R	0x62	b	0x72	r
0x23	#	0x33	3	0x43	C	0x53	S	0x63	c	0x73	s
0x24	\$	0x34	4	0x44	D	0x54	T	0x64	d	0x74	t
0x25	%	0x35	5	0x45	E	0x55	U	0x65	e	0x75	u
0x26	&	0x36	6	0x46	F	0x56	V	0x66	f	0x76	v
0x27	,	0x37	7	0x47	G	0x57	W	0x67	g	0x77	w
0x28	(0x38	8	0x48	H	0x58	X	0x68	h	0x78	x
0x29)	0x39	9	0x49	I	0x59	Y	0x69	i	0x79	y
0x2A	*	0x3A	:	0x4A	J	0x5A	Z	0x6A	j	0x7A	z
0x2B	+	0x3B	;	0x4B	K	0x5B	[0x6B	k	0x7B	{
0x2C	,	0x3C	<	0x4C	L	0x5C	\	0x6C	l	0x7C	
0x2D	-	0x3D	=	0x4D	M	0x5D]	0x6D	m	0x7D	}
0x2E	.	0x3E	>	0x4E	N	0x5E	^	0x6E	n	0x7E	~
0x2F	/	0x3F	?	0x4F	O	0x5F	_	0x6F	o	0x7F	DEL

※1: スペースを入力してください。



セイコーインスツル株式会社

プリントシステム事業部

千葉県千葉市美浜区中瀬 1-8 〒261-8507

電話番号: 043-211-1212 (直通) ファクシミリ: 043-211-8037

ホームページ: <https://www.sii-ps.com>

大阪営業所

大阪府大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川 5 番館 〒531-0072

電話番号: 06-7711-0858 (直通) ファクシミリ: 06-7711-0856

©本書の内容は、製品の改良に伴い、予告なしに変更することがあります。
